

七 日英通商航海条約改訂関係一件 九九

審議中ナルモ其ノ内容ハ乍遺憾説明シ難シ尤モ「ジャパン、アドヴァタイザ」掲載ノ通未タ銑鉄、毛織物等ヲ無税トスルノ議ハ起リ居ラズ

二、中外商業新報ニ掲載セラレタルモノハ臨時財政經濟調査委員会ニ閲スルモノニシテ該委員会ハ總理大臣ノ管理

ニ属シ現行ノ明治四十三年制定ノ関稅定率法ニ対シ根本的改正ヲナサントノ趣旨ニテ目下審議進行中ノモノニ属性又該委員会ニ於テモ未ダ審議事項ヲ公表スル程度ニ至ラザル由ナリ

三、元来日英協定ハ英國側ニ於テ本邦品ノ數種ヲ無税トセル對償トシテ英國ヨリ輸入ノ數品ニ対シ輕減ヲ許与セルモノナレバ日米通商航海條約ニ規定セル有條件最惠國待遇ノ解釈上前記輕減率ヲ米国品ニモ適用スルノ要否ハ聊カ疑問ナシトセサルモ米国ニ於テ本邦品ニ対シ殆ンド区別待遇ヲナシ居ラサルニ付從來ノ日米條約ノ規定ヲ寬大ニ解釈シ一律輕減率ニ均霑ヲ許シ居レリ今後ト雖モ米国ニ於テ本邦品ニ対シ不公平ナル待遇ヲ与ヘサル限り之ニ均霑セシムベシト信セラル

(欄外註記)

一一四

「十月二十二日「アボット」氏他用來省ノ節下記ノ趣旨談話シ置キタリ（永井局長）」

九九 十一月四日 内田外務大臣（ヨリ）

在英國林大使宛

日英關稅協定修正ニ閲スル參考資料送付ノ件

通総機密第二〇号

現行關稅協定修正ニ閲シテハ臨時條約改正調査委員会ニ於テ折角審議中ニ有之候處目下臨時財政經濟調査会ニ於テ審議中ニ係ル關稅定率法改正ノ件ハ未ダ成案ヲ見ザル關係上本件ニ閲シテモ關係各省間ノ意見相岐レ居ル次第ニ有之候得共今後猶ホ審議ヲ重ネ不遠成案ヲ可得ト被思惟候就而現行協定修正審議ノ参考ニ供セルモノ左記ノ通り為參考及御送付候条御查閱相成度此段申進候也

記

- 一、協定稅率修正審議ノ基礎案 二部
二、本邦對英國關係貿易調查表 二部
三、日英關稅協定ニ閲スル調查表（一）一部
四、日英關稅協定ニ閲スル調查表（二）一部

註 參考資料省略

事項八 極東露領沿海ニ於ケル漁業關係雜件

一〇〇 二月三日 閣議決定

大正十一年度露領沿岸漁業対策ニ閲シ請議ノ件

附記一 大正十年十二月二十日附閣議決定

二 大正九年十一月三十日附閣議決定ノ要旨

閣議案

本年度露領沿岸漁業対策ニ閲シ曩ニ閣議決定アリタルニ依リ右ニ基キ在浦潮帝國總領事ヲシテ同地政權ニ対シ我方要望条件ノ確認方ニ閲シ交渉ヲ開始セシメタル処爾來彼我ノ間ニ屢次ノ折衝ヲ見大正八年八月二十六日當時ノ政權者「オムスク」政府ト協議決定シタル日露漁業協約及附属議定書並從來享有スル權利ノ効力持続ニ閲スル確認取極ノ有効ナルコトヲ認メシメタル外左ノ条件ヲ獲得シ以テ我當業者ヲシテ浦潮政權ノ行フ本年度漁区競売ニ參加セシムルコトトシ之ヲ當業者ニ示達シタリ

第一 漁区借区料ハ之ヲ期間内露國官憲ヲシテ特定ノ

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業關係雜件 一〇〇

銀行ニ供託セシムルコト即

(一)日本漁業者ヨリ競売ノ際支払フヘキ借区料ノ半額ニ相

当スル保証金及短期競落漁区ノ上半期借区料並便宜上同

時期ニ納入スル長期漁区ニ対スル前年度下半期借区料及

当該年度ノ上半期借区料ハ之ヲ何レモ日本政府及浦潮政

權ニ於テ協定スヘキ適當ト認ムル銀行ニ供託スルコト

(二)前項供託金ノ内其ノ二分ノ一ハ漁業監督員其ノ他ノ經

費ニ充当スル為浦潮官憲ニ於テ之ヲ引出シ單獨ニ处分ス

ルコトヲ得ルモ残一分ノ一ハ當該年度ノ漁業カ完全ニ修

了シタル上浦潮政權ニ於テ之ヲ処分スルコトヲ得ルコト

第二 漁区表発布ノ際漁区競売ノ最低価格ヲ公表スルコト

第三 日露漁業協約第十一條ノ規定ニ依ル航海証書其ノ他漁業者ノ必要トスル諸證明ヲ敏速發給スル為浦潮政權ヨリ航海期間中本邦露國領事館へ必要ナル官吏ヲ補充スルコト

第四 冬期間漁区ノ建設物看守又ハ翌年漁業準備ノ為ニ
漁区ニ日本人越年ヲ許容スルコト

備考 前頭第一(一)ニ閲シ閣議ニ於テハ日露漁業者ノ納付スル
借区料云々ト決定アリタルモ露國側ハ日本漁業者ノ損害賠
償ノ保障トシテ露國漁業者ノ納付ニ係ル借区料ヲモ供託ス
ルコトハ露國ノ威敵ニ閲スルモノトシテ我方要望ニ応ゼズ
之カ為ニ本件交渉ニ一頓挫ヲ來サシメントシタルヲ以テ事
実上露國漁業者ノ納付スヘキ金額カ僅少ナルニ鑑ミ露國側
ノ主張ヲ容レ本文第一ノ通ニ妥結スルコト為シタリ

然ルニ當業者ハ今回其ノ借区漁区中大正九年及大正十年滿
期ト為リタル漁区及本年借区期間中漁区全部ニ對シ本年一
月限競売ニ依ラズシテ從来ノ借区者ニ於テ漁獲高ニ準拠シ
約金百万円ヲ以テ浦潮政權ヨリ之ヲ租借セシコトヲ目論見
右交渉万ヲ政府ニ申出ヅルニ至リタリ然レトモ今ニ至リ右
措置ニ出ヅルコトハ前頭浦潮政權ト交渉ノ次第ニ鑑ミ對外
策上妥当ナラザルハ勿論右ハ漁業協約ノ趣旨ニ反スルモノ
ニシテ後日ノ為ニ惡例ヲ貽スモノト認メラルル處當業者
全部ニ於テ右ニ異議無ク浦潮政權ニ於テモ之ヲ認ムルニ於
テハ當業者ノ同政權ニ對スル右私的交渉ハ一時ノ便法トシ

之ヲ阻止スル為ニ必要ナル手段ヲ講ズベキ事ヲ決定シ右ノ

如キ結果ニ立到ラザル様當業者ヲシテ速ニ所定ノ手続ヲ執

ルベキコトヲ警告スルコト致度

右請閣議決定

註1 此處ニ謂フ所ノ閣議決定トハ大正十年十二月二十日附
閣議決定ヲ意味ス該閣議決定ニ付テハ左掲ノ附記一參
看

2 日本書大正八年第一冊二三七文書二四一文書等
参照

3 大正十一年二月二日古谷重綱通商局長心得ガ本件請議

案ニ付意見ヲ求メタルニ對スル田中都吉次官代理ノ回

答左ノ通

阻止スルノ理由ハ権利ノ有無ニ拘ラズ外政上我立場ヲ

鞏固ニスルニアリ故ニ仮令借区期間中ノモノト雖モ浦

潮政權ト没交渉ニテ出漁スル所謂自由出漁者ハ之ヲ阻止スルノ覺悟ヲ要ス

繼續借区権所有者ガ正当ニ浦潮政權ニ借区料ヲ支払又
ハ供託シテ出漁スルニ於テハ之ヲ阻止スルニ及バザル

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業関係雑件

一〇〇

テ之ヲ差止ムルノ必要無シト思惟セラル尤モ右私的交渉ハ
之ヲ差止メザルモ一方ニ於テ前頭協定ノ結果ニ從ヒ漁区開
設出願書提出ノ如キ所定ノ手続ハ速ニ之ヲ執ラシメ置クヲ
シ自然所謂自由出漁ノ舉ニ出ヅルノ虞アルヲ以テナリ然ル
ニ若シ果シテ斯ノ如キ事態ヲ惹起シ政府ニ於テ之ヲ容認ス
ルコトアランカ帝国政府ハ他国政情ノ不安定又ハ勢力ノ微
弱ナルニ乘シ不当ノ利益ヲ圖ルモノナルヤノ疑惑ヲ受ケ之
ガ為ニ從来帝国政府カ内外ニ声明シ来レル公正ノ態度ニ累
ヲ及ボスペキノミナラズ之ヲ實際ノ利害ヨリ打算スルモ露
國ノ政權ト妥結的態度ニ出デ斯業永遠ノ發展ヲ計ル事最モ
適當ノ方策ニシテ自由出漁ノ如キハ将来露國トノ紛擾ヲ釀
成シ延テ第三國ノ介入ヲ促シ一時ノ利益ノ為ニ多大ノ後累
ヲ貽スモノニシテ浦潮政權ト或程度ノ妥結ヲ見タル今日ニ
於テハ飽迄之ヲ排除セザルベカラズ依テ此際競売入札ニ依
ラザル漁区租借ニ閲スル當業者自身ノ交渉ハ之ヲ差止メザ
ルモ他方當業者ニ於テ所定ノ手續ヲ執ラザリシ為右交渉不
調ニ了リタル結果所謂自由出漁ヲ為サントスルカ如キコト
アル場合ニ於テハ政府ハ何等保護ノ措置ニ出デザルハ勿論

ベシ村上君ハ此種ノ者ヲ意味スルトセバ之ニ從ヒテ可
ナリ此以外ノモノニ對シテハ原案ヲ固執セラレ度

要スルニ今回漁業者ノ言分ヲ通ストキハ對露外政上非
常ノ悪果ヲ招クベキハ大臣御意見ノ如シ此見地ニ於テ

農商務省ニテモ協力ヲ望ム阻止ノ方法ノ備不備ノ如キ
ハ更ニ研究スルモ可ナリ閣議ハ原案ノ儘通過セシメ先

ゾ政府一致ノ威力ヲ以テ当事者ニ警告スル事必要也當
業者間ニモ我利連ノミニモ非ザルヘシ

(附記一) 大正十年十二月二十日閣議決定

明年度露領沿岸ノ漁業対策ニ閲スル件

帝国政府ハ漁期ノ切迫ニ伴フ當業者ノ不安ヲ除去スル為可
成速ニ來年度ノ漁業対策ヲ決定スルノ要アル处在浦潮松村
總領事ノ電報ニ拠レハ十一月二十四日浦潮政權外交部次長
帝国總領事館ニ來リ昨年度齊多政府ハ勞農政府ノ承諾ナシ
トノ理由ノ下ニ日露漁業協約ニ基ク漁区ノ競爭入札ヲ執行
セサリシカ明年度ノ漁業ニ對シテハ現在勘察加「オホツク」
方面カ浦潮政權ノ管轄保護ノ下ニ帰シ居ルニ付漁区競争入
札等ハ同協約ニ依リ一切同政權ニ於テ之ヲ行ヒ度希望ナル

処万一年明日本政府ニ於テ之ヲ行フ（本年ハ既得漁業權擁護ノ為漁業者團体ニ於テ自治出漁セルモノニシテ日本政府カ入札ヲ行ヒタルニアラス）カ如キコトアラハ自然何等行違ヲ生スルノ虞アルニ付予メ帝国政府ノ諒解ヲ得タキ旨申出タリト云フ帝國政府ハ浦潮政府（一名「メルクーロフ」政府）ヲ承認セサルモ現ニ事實上ノ政權トシテ極東ニ存在シ殊ニ最近「オホツク」勘察加方面ノ政權ヲモ統一掌握セル今日ニ於テ同政府カ自己權力内ノ漁業權ヲ日露漁業協約ニ依リ自己ノ手ニ於テ貸下ゲントスルニ於テハ當業者カ其競売ニ參加スルハ實際上ニ於テ便宜ニシテ且妥当ノ処置ト認メラル尤モ現時大連ニ於テ齊多政府ト交渉中ニシテ其發展如何ニ依リ漁業ニ関シ取極ヲ見ルヘシト雖モ浦潮政權ヲ對手トスルハ漁期ノ關係ヨリ事實上已ムヲ得サルニ出テタルモノニシテ他日齊多政府ト漁業上ノ協約成立シタル場合ハ其新取極ハ齊多政府ノ權内ノ関スル限り有効ナルヘキハ論ヲ俟タサルコトヲ同政府ニ對シ声明シ置クニ於テ何等差支ナキノミナラス寧ロ齊多政府ヲ牽制スルノ利アルヘシト思惟セラル依テ帝國政府ハ浦潮政權ヲシテ客年十一月

三十日露領沿岸ノ漁業權擁護ニ關スル閣議決定ノ趣旨ニ基キ左記条件ヲ確認セシメタル上同政權ノ漁区貸下ヲ認メ當業者ヲシテ其競売ニ參加セシムルコト致度尤モ同政權ニ對シ千九百十九年八月二十六日當時ノ政權者「オムスク」政府ト協議決定シタル日露漁業協約及附屬議定書並從來享有スル權利ノ効力持続ニ關スル確認取極ハ同政權ニ於テモ之ヲ有効ト認ムヘキコトハ言ヲ俟タサル旨為念附言シ又前記閣議決定事項中ノ河川入江ヲ日本漁業者ニ開放セシムル件ニ付テハ本交涉力单ニ明年度ノ漁業ニ關スルモノナルヲ以テ此際ハ特ニ之カ提議ヲ為ササルモ帝國政府トシテハ適當ナル機會ニ於テ更メテ之ヲ提出スヘキコトヲ併セテ附言スルコトト致度

記

第一 漁区借区料ハ之ヲ或期間内露國官憲ヲシテ特定ノ銀行ニ供託セシムルコト即チ

(一) 日露漁業者ヨリ競売ノ際支払フヘキ借区料ノ半額ニ相当スル保証金及短期競落漁区ノ上半期借区料並便宜上同時季ニ納入スル長期漁区ニ対スル前年度下半期借区料及當該年度ノ上半期借区料ハ之ヲ何レモ日本政府

及浦潮政權ニ於テ協定シ適當ト認ムル銀行ニ供託スルコト

(二) 前項供託金ノ内其一分ノ一ハ漁業監督員其他ノ経費ニ充当スル為浦潮官憲ニ於テ之ヲ引出シ单独ニ处分スルコトヲ得ルコトトナスモ残一分ノ一ニ関シテハ當該年度ノ漁業カ完全ニ終了シタル上其处分方ニ就キ日本

政府及浦潮政權ニ於テ更ニ之ヲ協定スルコト

備考

交渉ノ上残二分ノ一ノ处分方ニ就キ万一先方ヨリ不同意ヲ

唱ヘ已ムヲ得サレハ結局當該年度ノ漁業終了シタル後ハ協定ヲ待タス先方ニ於テ之ヲ处分スルコトニ同意シ差支ナシ

トス

第二 漁区表發布ノ際漁区競売ノ最低価格ヲ公表セシムルコト

漁区競売ノ評価ハ露國政府ニ於テ年々騰貴セシメツツアリ此趨勢ヲ以テ将来ヲ推セハ借区料高価ノ為ニ漁業經營ハ收支相償ハサルニ至ルヘキヲ以テ浦潮政權ヲシテ明

治四十一年（千九百八年）十二協定第一条ノ規定ヲ尊重セシムルト同時ニ露貨下落以來當業者ハ露紙幣ヲ我貨幣

(附記)

大正九年十一月三十日附閣議決定ノ要旨

露領沿岸ノ漁業權擁護ニ關スル件

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業関係雑件 一〇〇

一一九

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業関係雑件 一〇一

後ハ一層悪化シ過激派又ハ之カ類似ノモノノ跋扈專横極度ニ達シ日露漁業協約ニ依リ我獲得セル露領沿岸ノ漁業權ハ往々之力為侵害ヲ被ルニ至レリ然ルニ浦潮臨時政府ハ何等ノ処置トシテ左記諸項ノ実行ヲ露國側ニ要求スルニ決セリ

第一 漁区借区料ハ之ヲ或期間内露國官憲ヲシテ特定ノ銀行ニ供託セシムルコト

第二 漁区表發布ノ際漁区競売ノ最低価格ヲ公表スルコト

第三 日露漁業協約第十一条ノ規定ニ依ル航海証書其ノ他漁業者ノ必要トル諸證明ハ露西亞國領事館ノ發給ニ限ラス日本官憲ヨリモ發給シ得ルコト

第四 日本漁業者間及日露漁業者間ニ共同ヲ以テ船舶ヲ雇入レ露領沿岸ノ漁区ニ廻航シ得ルコトハ勿論從来經營セル漁区不落ト為リタル場合旧漁区ニ残置セル漁業用品其他ノ物件ヲ他ノ所ニ競落セル漁町ニ運搬シ得ヘキコトヲ確認スルコト

第五 露國領水ニ於ケル日本臣民ノ漁業ニ關スル權利竝義務ハ日露漁業協約及附屬協定書ニ依ルヲ原則トルモ

一二〇

河川及入江ニ於ケル漁業ニ關シテハ軍事上茲士人及移民ノ生存ノ為必要ノ場合ヲ除キ露國臣民ト同様之ヲ日本國民ニ開放スルコト

右決定ニ基キ在浦潮政務部長ハ十二月十七日以来我要求ニ関シ浦潮沿海州厅ト交渉中ナリ

一〇一 四月六日 農商務省水產局長ヨリ

大正十一年度露領沿岸漁業対策ニ關シ近ク提出スベキ閣議案ニ農商務省側意見盛込方申越ノ件

局第六二一号

(四月六日接受)

大正十一年四月六日 農商務省水產局長(印)

外務省通商局長殿

本月五日貴局酒匂監理課長ヲ以テ御内談相成候大正十一年露領出漁ニ關スル件中新規漁区ノ点ニ付テハ當方トシテハ左記ノ通ノ意見ニ有之候間右御参考之上本件ニ關スル閣議稟請案ニ新規漁区出漁ヲ容認スルコトヲ加ヘラレ候様致度此段及照会候也

記
日本人ノ希望ニ依リ新規ノ漁区ヲ發表開設スルハ日露漁業協約ニ基ク露國ノ重大ナル義務ニシテ殊ニ今回ノ如キ日本人ノ希望ニ依リ浦潮政權カ其ノ開設ヲ公然發表シタル漁区ニ出漁スルハ漁業協約ニ基ク既得權状態ノ遂行ニ外ナラズ

（附記）
北支スター紙記事和訳文（註 外務省係官作成ノ仮訳文ナリ）

日露間論議

一〇一 四月八日 在中国吉田臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

露領ニ於ケル漁業權問題ニ關スル英字紙記事

報告ノ件

附記 北支スター紙記事和訳文

公第一六四号 (四月十四日接受)

大正十一年四月八日

在支那

外務大臣伯爵 内田 康哉殿
臨時代理公使 吉田 伊三郎(印)

露領ニ於ケル漁業權問題ニ關スル新聞記事報告ノ件
首題ノ問題ニ関シ四月七日発行ノ「ノース、チャイナ、スター」ハ別添ノ如キ記事ヲ掲ゲ日露漁業協定ノ沿革ヲ説キ
九百七年ノ日露漁業協約中ノ漁業区域並漁業方法等ニ關スル

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業關係雜件 一〇一

一〇一

一一一

由主義ニ全ク背叛スルモノト云フヘシ然ノミナラススル措置ハ不正ニ対シ凡ユル機会ヲ附与スルモノニシテ露国太平洋沿岸並ニ隣接領海ノ漁業権問題ニ関スル既往ニ於ケル日露間ノ凡ユル取極ニ違反スルモノナリ

前述ノ水域ニ於テ日本人力漁業ニ從事シ得ルニ至レルハ一九〇七年日露両國間ニ締結セラレタル漁業協約ニ基クモノナルヲ以テ現今論議セラレツツアル事件ニ付完全ナル取極ヲ為サンカ為メ該協約ノ成文及沿革ヲ想起スルモ敢テ無用ノ事ナラサルヘシ
露国ハ日本ガポーツマス條約ニヨリ得タル經濟上ノ利益ニ関連シ極東沿岸ニ於テ日本臣民ノ漁業ニ從事スルノ権利ヲハ容認スルニ至レリ然レトモ該問題ニ関スルボーツマス條約ノ成文ハ極メテ漠然タルモノニシテ關係一般原則ノ叙述ニ過キス明ニ後日本条文ノ適用ニ関シ精密ニシテ且ツ完全ナル協定ノ必要ヲ留意セシメタリ而シテ該協定ハ一九〇七年締結セラレタル漁業協約ニヨリ成立シ範囲広汎ニシテ且ツ包括的ナリシ日本人取得ノ漁業権ハ一層明確ニ限定セラルルニ至レリ即チ協約ニ依リ日本人ハ種々ナル漁業ニ從事シ魚類及其他海產物ノ採捕並ニ製造ヲ為シ得ルノ権利ヲ享受シタルモ其開放区域ニ關シテハ條約ノ規定ニ稍制限ヲ加

シタル魚類及海產物ニ対シ課税セサル場合ハ露国ニ於テモ課税セサルヘント云フコトニ一致セリ

協約以外ノ水域ニ関スル制限ハ單ニ漁法ニノミ適用セラルモノニシテ製造、貯藏及其他ノ処理法ニハ及ハサルモノナレドモ右ニ関シ日本人ハ僅少ナル權利ヲ附与セラレタルニ過キサルナリ

該漁業協約ハ七月二十八日調印セラレ十二年間ノ効力ヲ有シ該期限終了後ニ於テ即一九一九年七月二十八日ニ更新又ハ改正ヲ為スモノトセリ

然レトモ周知ノ如ク一九一九年七月ニアリテハ露国ニ於テ日本政府カ協約ノ更新ヲ議スヘキ正当政府ノ樹立ナク而モ日本側ニ於テハ何等更新セスシテ露国臣民ノ為保留セル凡テノ権利及特權ヲ獲得セリ

斯シテ日本漁業家ハ黒竜江及其他ノ河川ニ出漁シ剩ヘ協約ニ拠リ除外セラレタル入江ノ漁業ヲ為スニ到リ協約水域及

協約除外水域間ノ明確ナル区分ヲ無視シ處理後ノ海產物ニ對スル協約ノ制限ヲモ無視スルニ至レリ

加之日本漁業家ハ日本官憲ノ獎励ニヨリ益々發展シ露国漁業者ト競争セントスル明白ナル目的ニヨリ露国臣民ノ為ニ

而モ當時未タ十分開発セラレサリシ「オホツク」全沿岸ハ「陸地ニ湾入セル部分ノ長サ江口ノ幅ノ三倍以上ニ及フノ入江ニ於ケル日本人ノ漁業ヲハ明ニ禁止スル旨ノ除外例ヲ設ケタリ

而シテ協約ニ漁場貸下ヲ規定シ日本臣民ハ露国官憲カ浦潮ニ於テ年々施行スル入札法ニヨリテ露国臣民ト同等ナル権利及待遇ヲ享クルモノトナセリ又協約水域ノ利用ニ対シテモ日本人ハ露国人ト同等ナルコトヲ保障スル為メ特ニ協約ニ於テ日本人ニ同方面ニ於ケル露国人ノ免除セラルル凡ユル制限並ニ課税ニ服従スルノ要ナキヲ規定シ他面日本人ハ漁業方法並ニ外國労働者使用等ニ関シテハ總テノ露國法規ニ從フヘキモノトナセリ又露国政府ハ日本國政府カ日本ヘノ輸出ヲ目的トシ沿海州及黒竜州地方ニ於テ採捕若々製造セラルナリ

保留セル漁場ヲ犯セルノミナラス或ル場合(殆ント大部分)ニ於テ全然露國漁業家ヲ駆逐セリ
尚該協約ノ適當時機ニ更新セラレサリシ事實ハ特殊ノ情態ナリシトハ雖日本政府ハ之力カ為義務ヲ免レ得ルモノニ非ザルナリ又協約ハ當時ノ露国政府カ調印シタルモノトハ雖モ結局ハ露国臣民トノ協約ナルガ故ニ相手政府ナキ場合露人ニ対シ日本政府ハ特種ノ義務ヲ負フヘキモノナリ而シテ該義務ハ一方ニ存スルモノニシテ日本司令官ノ最近ノ抗議ノ如キハ嚴肅ナル取極ヲ無視セルコト未タ曾テ見サル所ニシテ此不信ニ対シテハ日本政府ハ他日責ヲ負ハサルヘカラサルモノナリ

一〇三 四月十一日 前田露領水產組合組長ヨリ
内田外務大臣宛
軍艦派遣方加藤海軍大臣ニ請願シタル件
發第四三五号

大正十一年四月十一日
露領水產組合組長子爵 前田 利定(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

拝啓露領出漁者保護ノタメ軍艦派遣方ニ関シ別紙写ノ通り請願致置候ニ付テハ何卒願意貫徹方御高配相仰度此段奉懇

願候

敬具

註 本件同趣旨ノ書翰同日附ヲ以テ山本農商務大臣ヘモ送付セ
ラレタリ

(別紙)

発第四三五号写

大正十一年四月十一日

露領水産組合組長子爵 前田 利定

海軍大臣男爵 加藤 友三郎殿

軍艦派遣方請願ノ件

本年度當組合員ノ露領漁業ニ閔シテハ目下夫々御詮議相仰候次第ニ有之候処沿海州方面ノ鰯漁業ハ既ニ漁季切迫致シ近ク出漁スルニ非ザレバ遂ニ時期ヲ逸シ候ニ付該方面ニ漁区ヲ有スル者ハ昨今既ニ出漁致候処浦鹽政權ハ沿海州方面ニ向ケ近ク漁業監視船ヲ巡航スルヤニ及間候ニ付テハ我當業者ヲ密漁者ト見做シ漁具其他沒收ノ上當業ヲ妨害スルノ虞有之若右様ノ結果ニ立至リ候ハ甚大ナル損害ヲ蒙ルコトト相成リ我當業者ノ誠ニ危惧不安ノ念ニ堪ヘサル次第ニ有之候ニ付テハ事情御高諒被成下何卒同方面へ軍艦急々御派遣ノ上御保護相仰度此段及請願候 敬具

一〇四 四月十二日 農商務省水產局長ヨリ

露領沿岸出漁者保護及出漁ニ關スル閣議決定

促進方依頼ノ件

局第六九九号

大正十一年四月十二日

農商務省水產局長(印)

外務省通商局長殿

露領出漁者保護ノ件ニ閔シ今般露領水產組合組長ヨリ別紙ノ通請願ノ次第有之候処右ハ尤ノ次第ト被認候間願意達成方可然御配意相煩度次ニ本年既ニ出漁シタル者ニ付テハ今朝電話ヲ以テ不敢貴局酒勾監理課長宛申進候次第モ有之尚未浦潮「メ」政權ノ執行シタル漁区競売ハ之ヲ否認スルモ一旦競売ノ行ハレタル以上ハ當該關係ノ本邦當業者ヲシテ成ル可ク速ニ漁区ニ到達セシメ置クハ得策ノコトト被認候ニ付テハ予テ御協議中ノ出漁ニ閔スル閣議稟請ノ義ハ至急進行スル様致度此段併テ及照会候也

註 別紙省略

一〇五 四月十三日 前田露領水產組合組長ヨリ
古谷通商局長心得宛

本年度新規開設漁区ノ經營方ニ付請願ノ件
發第四四七号 (四月十四日接受)

大正十一年四月十三日

露領水產組合組長子爵 前田 利定(印)

外務省通商局長心得 古谷 重綱殿

本年度貸下漁区トシテ發表相成候漁区中當組合員ノ出願ニ基キ初メテ開設相成候漁区ニ閔シテハ予テ當組合員カ親シク実地踏査ノ上相當經營スルニ価スルモノト認メラレ候モノニ有之、漁区發表ト同時ニ是非之ヲ借区スルノ意志ニ有之候處本年露領出漁ハ平年ト異リ臨機ノ方法ニ依リ出漁スベキ事ニモ相成候ハバ前記新規開設漁区モ本年更新漁区同様組合員ニ於テ經營シ得ル様特ニ御詮議相仰度此段請願仕候也

追而右遠隔ナル新規漁区經營ニ際シ万一生スル事アルベキ事故ニ付テハ當該經營者ニ於テ處理致候モ不苦此儀申添候追而右ハ農商務省水產局長ヘモ請願致置候

一〇六 四月十五日 閣議決定
本年度露領沿岸ノ漁業対策ニ關シ請議ノ件

八 極東露領沿岸ノ漁業関係雑件 一〇六

タルモ露國側ハ何等特典ト認メ得サル事項ニ付テモ之ヲ精神ニ基キ數次ニ亘リ前記最低価格及其ノ他ノ点ニ付テモ相当ノ条件ヲ定メ在浦潮給領事ヲシテ至急解決方努力セシメ

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業関係雑件 一〇九

一〇九 四月十九日

村上水産局長、古谷通商局長心得ヨリ
前田露領水産組合組長宛

本年度露領沿岸ニ於ケル邦人出漁ニ閑スル閑

議決定及借区料等ノ決定通知ノ件

通監普通第六〇九号

本年度露領沿岸ニ於ケル本邦人ノ出漁ニ閑スル件

本件ニ閑シ本月十五日別紙甲号(註)ノ通り閑議決定相成候ニ付
借区料其他ニ閑シテハ別紙乙号ノ通り決定致候条委曲右ニ

依リ御承知ノ上至急夫々御措置相成度此段依命及御通知候

也

註 別紙甲号省略右ハ前出四月十五日附閑議決定中ノ「記」以

下ト同文ナリ

(別紙)乙号

借区料其他ニ閑スル決定

一、大正九年度及夫レ以前ノ未納借区料ハ調査精算ノ上將
來適當ノ時期ニ露國側ニ納入セシムルコト

二、大正十年度未納借区料ハ可成速ニ納入セシムルコト

三、本年借区期間中ノ漁区借区料ニ付テハ左ノ標準ニ依リ

其ノ上半期分ヲ出漁前ニ下半期分ヲ本年十二月末日迄ニ
納入セシムルコト

- 四、大正九年及十年満期ノ漁区ニ付テハ左ノ通リトス
イ、從来ノ権利者ヲシテ出漁セシムルコト
ロ、借区料ニ付テハ三ノ標準ニ依リ出漁前大正十一年度
コトアルヘシ
- 口、借区料ニ付テハ左ノ通リトス
五、新規漁区ニ付テハ左ノ通リトス
イ、権利者ノ決定ハ組合ニ一任スルコト但シ其ノ最低価
格ハ露國側ノ發表ノモノニ依ルコト
ロ、保証金トシテ出漁前借区料ノ半額ヲ納入セシムルコ
ト

ハ、借区料ハ金留建トシ其ノ上半期分ヲ出漁前ニ下半期
分ヲ本年十二月末日迄ニ納入セシムルコト但シ其ノ下
半期分ハ保証金ヲ以テ振り替フルコトヲ得

六、借区期間中ノ漁区ニ付スル借区料ハ不經營ノ場合モ之

ヲ納入セシムルコト

七 本年容認又ハ默認セラレタル出漁ノ権利ハ本年度ノミ
ニ限定スルコト

八、公課金ハ露國側ノ定メタル金留建ニ依リ出漁前納入セ
シムルコト

九、一金留ハ仮リニ一金円トス

十、「オホツク」西南区方面被害漁区ニ付スル本年度借区

料ハ之ヲ免除スルコト

十一、出漁ニ閑スル手続ハ監督官庁ノ承認ヲ経テ組合ニ於

テ決定スルコト

一一〇 四月十九日 前田露領水産組合組長ヨリ

古谷通商局長心得宛

露領漁業密業者ノ取締方請願ノ件

発第四六五号

大正十一年四月十九日

露領水産組合組長 子爵 前田 利定 (印)

外務省通商局長心得 古谷 重綱殿

本年度露領漁業ニ閑シテハ閑議御決定ノ御趣旨ニ基キ当組
合員ハ組合ノ決議ニ係ル規程ヲ遵奉シ聊モ前記御趣旨ニ戻

ルコト無キ様各自相警メ夫々出漁致ス可候処組合員外ノモ

ノニシテ予テ露領方面ノ密漁ニ志ス者ハ組合ノ制裁ヲ受ケ

サルヲ機トシ露國ノ秩序紊乱ニ乘シ巧ニ本年該方面ニ密漁

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業関係雑件

一一〇 一一

一一一

一一二

一一二 四月二十六日 内田外務大臣ヨリ
在浦潮松村給領事宛 (電報)

露国外交部ヨリノ照会ニ付スル回答振ニ閑シ

一一三

ヲ試ミルモノ有之ルヤモ不計レズ候右ハ當組合員ノ正當ナル出漁ヲ為ス者ニ取リテハ甚々迷惑ノ儀ニ候条是等ノ者ニ對シ出漁前相當御取締方可然御詮議相仰度此段請願仕候也

一一一 四月二十四日 在浦潮松村給領事ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

日本政府力自由出漁ヲ許可セル旨ノ新聞記事

ニ閑シ外交部ヨリ照会アリタルニ付請訓ノ件

第一〇五号 (四月二十四日接受)

浦潮日報 (露字版) ニ東京通信トシテ日本政府ハ浦潮ニ於ケル漁区競売ヲ否認シ日本漁業者ニ付シ漁業協約区域内ノ領水ニ於テ漁業庁ノ許可ナク自由出漁ヲ許可シタル旨ノ記事アリタル趣ヲ以テ右ハ事実ナリヤ又若シ然ラハ如何ナル理由又ハ根拠ニ基キ許可セラレタルモノナリヤ通知アリタキ旨外交部ヨリ書面ヲ以テ照会シ來リタル処右ニ付シテハ貴電第九〇号ノ趣旨ニ依リ回答シ差支ナキヤ至急何分ノ御回電アリタシ

回訓ノ件

別電 同日内田外務大臣発松村總領事宛電報第九三号
自由出漁容認ニ閲スル公表文

第九二号

貴電第一〇五号ニ閲シ別電ノ通当地ニ於テ之ヲ公表スルコトニ決シタリ就テハ貴地ニ於テハ貴官ノ御裁量ニ依リ適宜御取計アリタシ

(別電)

四月二十六日内田外務大臣発在浦潮松村總領事宛電報

第九三号

自由出漁容認ニ閲スル公表文

第九三号 別電

帝国政府ニ於テハ「メルクロフ」政権ヲ承認セルモノニアラサルモ露領沿岸ニ於ケル本年度本邦人ノ漁業經營ニ閲シテハ關係地方ノ実情ニ鑑ミ不得已同政権ト交渉ヲ試ミ努メテ交讓妥協ノ精神ニ基キ協議シ来リタル処露國側ハ其ノ最後ノ決答トシテ(一)魚族繁殖費ノ如キ既ニ大正九年當時ノ政権ニ於テ徵收セザルコトニ決定セルモノヲ特典トシテ之ヲ廃止スト言ヒ(二)鯨漁区ノ副網使用料金ノ如キ明治四十一年

ノ十二協定事項中ニ規定セル事項ニシテ現ニ大正八年之ニ借区料ノ一割五分ヲ課スル問題起リシモ交渉ノ結果其ノ翌年當時ノ政権ニ於テ右協定ノ規定通りニ決定セルモノヲ特典トシテ從前通りトナスト言ヒ(三)改良網ニ付テハ日露漁業協約ニ於テ漁網ノ種類明文ナク又現ニ大正五年露國政府ハ中抜網ヲ許可スルニ至リタル経緯アルニ鑑ミルモ今之ヲ改良網ニ変更スルモ何等協約ニ違反スルモノニアラサルハ明カナルニ不拘之ヲ違反ナリト固執シ四競壳ノ方法トシテロ

頭入札併用スルハ寧ロ露國人側ニハ特典トナルヘキモ本邦人ハ從來競壳参加ノ為メ自ラ渡航スルニ依リ何等特典トナラサルモ之ヲ特典ナリトシ只(五)漁区借区料競壳最低価格ニ付僅ニ或程度迄我要望ヲ容認セリ而シテ此等特典ト認メ難

キ事項ヲ特典ナリト主張シ之カ賦与ノ条件トシテ事実精査ノ上ニ非ラサレハ決定シ難キ未納借区料ノ納付ヲ強ヒタリ而シテ所謂未納借区料中ニハ輓近頻繁ナル政権ノ異動ト共ニ漁業厅長官ノ交迭ヲ來シ「ラウロフ」カ漁業厅長官タリシ時代ニ便宜在函館露國領事ヲシテ漁区借区料ノ一部ヲ徵収セシメタル金額及當業者ヨリ其後任者タル「パンテレー」エフ」長官ニ対シ保証金ヲ以テ満期漁区ノ借区料ニ流用方

ヲ申請シタル金額モ共ニ先方ハ之ヲ未納ト為シ居ル等甚タ紛糾セル關係アルモノ少カラス現ニ當業者ヨリ特派セル稻川代表者ノ調査申請ニ對シテモ先方ハ明確ナル回答ヲ与ヘ

サリシモノニシテ此際之等ノ調査ヲ俟タスシテ之カ納付ヲ応諾スルカ如キハ殆ント不可能事ニ属ス加之競壳ノ期日ニ

関シテモ先方ノ決答ニ對シ我當業者カ考慮ノ余日ナキコト明カルニ拘ラズ四月四日之ヲ断行シ而カモ之ニ參加セル

露国人ノ納付スヘキ保証金ニ對シ小切手代納ヲ許可シ從来ノ規定ヲ無視セル不正ナル便宜ヲ与ヘ自國民ノミニ重要漁区ヲ競壳セシムルニ至リタルハ全ク我交渉ニ對シ誠意ヲ缺

キタルモノト認ムルノ外ナン依テ帝国政府ハ一面斯ル競壳ヲ有効ナルモノト認ムル能ハサルト共ニ他面條約ニ基ク既得權擁護ノ趣旨ニ依リ不得止機宜ノ措置トシテ帝国政府ノ

公正妥當ト認ムル条件ノ下ニ露領水産組合カ同組合員ヲシテ自治的ニ出漁ヲ行ハシムルコトヲ容認シ之ニ對シテハ適當ト認ムル範囲ニ於テ帝国艦船ヲ以テ保護監督ヲ為ス可ク

漁区借区料及其ノ他ノ公課金ハ從來ノ例ヲ按照シテ之ヲ定メ前記組合ヲシテ之ヲ徵收シ適當ノ機関ニ供託セシムルコトトセリ而シテ右措置ニ閲シ起生ス可キ問題ニ付テハ将来

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業關係雑件 一一三

日進特機密第十四号

(四月二十三日接受)
電報日進特機密第十四号

(別紙一)甲号

別紙甲号日進艦長電報ニ閲シ別紙乙号ノ通同艦長宛電報致シ候

右通牒ス

外務次官 増原 正直殿

政権漁業監視船武装ノ件

大正十一年四月二十六日
(四月二十七日接受)
官房機密第六〇五号
メルターロフ政権漁業監視船武装ニ閲スル來
往電通牒ノ件

海軍次官 井出 謙治 (印)

外務次官 増原 正直殿

政権漁業監視船武装ノ件

別紙甲号日進艦長電報ニ閲シ別紙乙号ノ通同艦長宛電報致シ候

(別紙一)甲号

四月二十一日在浦潮日進艦長ヨリ海軍次官、軍令部次長宛
「メ」政権ハ意氣俄ニ揚ラス從來兔角ノ噂アリシ内部ノ

日進特機密第十四号

(四月二十三日接受)

不和モ幾分融和ヲ來シ祭ノ後ニ於テ或ハ我特務機関ニ對シ押収兵器ノ交付ヲ要求シ或ハ我居留民ニ對シ未納稅ノ督促等著シク積極的色彩ヲ帶ヒ來レリ

二、昨二十日西比利亞艦隊參謀長ヨリ漁業監視ノ為來月上旬出動北航スヘキ五隻ノ小艦艇武装ニ要スル兵器彈薬

(我陸軍ニテ保管中ノモノ)若干交付方ニ就キ尽力ヲ懇

望シ來レリ本件ハ從来ノ方針ニ依リ當然拒絕手続ヲ履ム

ヘキモ漁業監視ニ對シテハ拒否ノ権利ナキノミナラス西

比利亞艦隊軍人軍屬ハ押収兵器以外ニ隠匿シアルモノア

リトノ說アリ前例アルカ如ク我ニ於テ徹底的ニ其武装ヲ

抑制シ能ハサルヲ以テ特ニ本年度彼我漁業關係ニ就キ大

ナル葛藤ヲ惹起スル恐アリ此点ニ閲シテハ何分ノ考慮ヲ

煩ハシ度

発電先 次官軍令部次長第三艦隊長官

臨時防備隊司令閏東特務艦長

(別紙二)乙号

四月二十六日海軍次官ヨリ第三艦隊參謀長日進艦長宛電報

官房機密第四七番

官房機密第四七番

ノ上何分ノ御意見至急御回示相成度
右照会ス

追テ別紙方針ハ情況ニ応シ海軍大臣ヨリ最近ノ閣議ニ於テ一応諒解ヲ求メラルコト相成ルヘク候間併セテ御承知相成度

(別紙)

四月十五日閣議決定ニ依ル露領沿岸出漁者保護

取締方針

一、漁業監視船ニ閲シ(赤白軍何レニ属スルヲ問ハス)
甲、碇泊中ノ漁業監視船ニ對スル場合

(処置)

イ、邦人ノ漁業ヲ妨害セサル如ク必要ナル警告ヲ与フ

ロ、但シ該船カ邦人ニ損害ヲ加ヘシモノナルコト明ナ

ル場合又ハ之ヲ想像シ得ル場合ニハ之ヲ臨検問責シ

押収品等ハ更ニ之ヲ押収スルト共ニ将来ニ對シ敵ニ

警告ヲ与フ

ハ、邦人ノ生命ニ危害ヲ加ヘ又ハ一旦警告ヲ与ヘタル

ニ係ハラス邦人ニ損害ヲ与ヘタル事明ナルカ又ハ之ヲ想像シ得ル場合ニハ武装ヲ解除ス

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業関係雑件

一四

日進特機第十四号電報第二項ノ件露領沿岸出漁邦人保護方針ハ目下關係各省ニテ協議中不日電報スヘキモ何レニシテモ閣議ハ漁業ニ關シ「メ」政權ヲ認メ居ラザル次第ニ付海軍側トシテハ先方ノ申出ニ応ズベキ限ニ非ザルヲ諒知シ機宜應酬セラレ度

一一四 四月二十八日 井出海軍次官ヨリ

埴原外務次官宛

露領沿岸出漁者保護取締方針ニ閔スル外務省

側意見問合ノ件

官房機密第六一九号

大正十一年四月二十八日 (四月二十九日接受)

海軍次官 井出 謙治 (印)

外務次官 境原 正直殿

露領沿岸出漁邦人保護取締ノ件

大正十一年度露領沿岸漁業対策ニ閲シテハ四月十五日閣議ニ於テ自治出漁ヲ承認セラレ且大正十一年度既定予算ノ範囲内ニ於テ帝国海軍艦船ヲ以テ可能範囲ノ保護ヲ加フルコトニ決定相成候處之カ保護取締ニ閲シ海軍側ニ於テハ別紙方針ニ準拠シ処置セラルル予定ニ有之候ニ付テハ右御承知

一三三

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業関係雑件 一一五 一一六

宜ノ処置ヲ講ス

兵力ノ行使ニ関シテハ第一戊号ノ場合ニ準ス

三、正規ノ手続ヲ履行セサル邦人出漁者ヲ発見セシ場合

情況ヲ調査シタル後之カ退去ヲ命シ情況ニ応シ漁具ヲ押収ス

四、邦人出漁者中法規違反行為者ヲ発見セシ場合

情況ヲ調査シタル後之ニ警告ヲ与ヘ違反行為ヲ中止セシ

ムルト共ニ要スレハ出漁証明書及違反漁具ヲ押収ス

一一五 五月一日 内田外務大臣ヨリ

在米國佐分利臨時代理大使宛（電報）

本年度露領沿岸ニ於ケル邦人ノ漁業対策決定

セル旨通報ノ件

第二一八号

帝国政府ニ於テハ漁期ノ切迫ニ伴フ當業者ノ不安ヲ除去スル為可成速ニ本年度露領沿岸ニ於ケル本邦人ノ漁業対策ヲ決定スルノ要アリタルニ付關係地方ノ寒情ニ基ク便宜措置トシテ「メルクロフ」政權ト右ニ関シ交渉ヲ試ミ來リタル處遂ニ交渉不調トナリタルヲ以テ四月十五日閣議ニ於テ已ムヲ得サル機宜ノ便法トシテ往電二一九号ノ通り我方針ヲ

決定シ右ニ基キ我當業者カ本年度漁業ノ經營ニ当ルコトヲ容認保護スルコトトセリ尚右不調ノ要点等ニ付大要往電第二二〇号ノ通り四月二十九日公表セリ
以上訓令トシテ別電ト共ニ在「ゼノア」全權及在欧大使ヘ轉電シ在米各領事ヘ郵報アリタシ
註 往電第二一九号ヲ省略ス右ハ前出四月十五日閣議決定ノ後半「記」ノ部分ト同文ナリ

一一六 五月一日 内田外務大臣ヨリ

在米國佐分利臨時代理大使宛（電報）

邦人漁業者ノ露領沿岸出漁ニ關スルメルクロ

フ政權トノ交渉経緯公表ノ概要通報ノ件

第二二〇号

帝国政府ニ於テハ「メルクロフ」政權ヲ承認セルモノニアラサルモ露領沿岸ニ於ケル本年度本邦人ノ漁業經營ニ關シテハ關係地方ノ寒情ニ基キ協議シ来リタル處露國側ハ其ノ最後ノ決答トシテ（一）魚族繁殖費（二）鰯漁区ノ副網使用料金（三）競売方法ニ關シ何等特典ト認ム可カラサルモノヲ特典ナリトシ且四改良網ノ使用ハ日露漁業協約ニ違反スルモノナリト固

執シ只因漁区借区料競売最低価格ニ付僅ニ或程度迄我要望ヲ容認セリ而シテ此等特典ト認メ難キ事項ヲ特典ナリト主張シ之カ付与ノ条件トシテ事實精査ノ上ニ非ラサレハ決定シ難キ未納借区料ノ納付ヲ強ヒタリ加之競売ノ期日ニ關シテモ先方ノ決答ニ對シ我當業者カ考慮ノ余日ナキコト明ナルニ拘ラス四月四日之ヲ断行シ而モ之ニ參加セル露國人ノ納付スヘキ保証金ニ對シ小切手代納ヲ許可シ從來ノ規定ヲ無視セル不正ナル便宜ヲ与ヘ自國民ノミニ重要漁区ヲ競落セシムルニ至リタルハ全ク我交渉ニ對シ誠意ヲ缺キタルモノト認ムルノ外ナシ仍テ帝国政府ハ一面斯ル競売ヲ有効ナルモノト認ムル能ハサルト共ニ他面條約ニ基ク既得権擁護ノ趣旨ニ依リ不得已機宜ノ措置トシテ帝国政府ノ公正妥當ト認ムル条件ノ下ニ露領水產組合カ同組合員ラシテ自治的ニ出漁ヲ行ハシムルコトヲ容認シ之ニ對シテハ適當ト認ムル範囲ニ於テ帝国艦船ヲ以テ保護監督ヲ為ス可ク漁区借区料及其ノ他ノ公課金ハ從來ノ例ヲ按照シテ之ヲ定メ前記組合ヲシテ之ヲ徵收シ適當ノ機関ニ供託セシムルコトトセリ而シテ右措置ニ関シ起生ス可キ問題ニ付テハ将来帝国政府ニ於テ適當ト認ムル露國政權ト之ヲ協議ス可シ

一一七 五月一日 塙原外務次官ヨリ

井出海軍次官宛

露領沿岸出漁邦人保護取締方針ニ關シ回答ノ件

通監機密第三六号

露領沿岸出漁邦人保護取締ノ件

本件ニ關シ四月二十八日付官房機密第六一九号ヲ以テ御照会ノ趣了承省ノ意見トシテハ前記貴信添付出漁者保護取締方針一ノハ中「明ナルカ又ハ之ヲ想像」トアルヲ「認定」ト改ムル様致度其他ハ異議無之候余右ニ御承知相成度此段及回答候也

一一八 五月四日 豊田海軍省軍務局局員ヨリ

酒匂外務省通商局監理課長殿

露國監視船二対スル警告案ニ關スル件

附記 露國監視船ニ対スル警告案

大正十一年五月四日

豊田海軍省軍務局局員

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業関係雑件 一一七 一一八

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業関係雑件 一八

一三六

本件ニ関スル海軍省ノ意見ハ警告ヲ無視セル場合ニ對シ海軍艦船ノ採ルヘキ手段ヲ予告シ置クヲ可トスルモノニ有之即チ警告案第三頁第三行「妨害ヲ加フルヲ許サズ若シ」以下ヲ左記ノ通改ムルヲ適當ト認ムルモノニ有之候間右御承知ノ上可然御取計ヲ得度

記

「若シ露國漁業監視船ニシテ本警告ヲ無視シ本邦漁業船若ハ漁業者ニ対シ妨害ヲ加ヘ又ハ損害若ハ危害ヲ加ヘタルコトヲ認定シ得ル場合ニハ帝国艦船ハ適當ト認ムル措置ヲ講スヘシ而シテ」

右回答ス

追テ御手数ナガラ警告文及露語訳文ハ十五通調製ノ上御送付被下様願上候

註 該警告案ニ付テハ左掲ノ附記參看

(附記)

露國監視船ニ對スル警告案(外務省通商局監理課立案)

帝国政府ニ於テハ「メルクロフ」政權ヲ承認セルモノニアラサルモ露領沿岸ニ於ケル本年度本邦人ノ漁業經營ニ關シテハ關係地方ノ実情ニ鑑ミ不得已同政權ト交渉ヲ試ミ努メ

トセリ而シテ右措置ニ関シ起生ス可キ問題ニ付テハ将来帝國政府ニ於テ適當ト認ムル露國政權ト之ヲ協議ス可シ叙上ノ次第ナルニ付帝國艦船ハ素ヨリ露國漁業監視船方領海内ノ自國漁業船若ハ漁業者ヲ監視セムトスルニ對シ何等干渉スヘキ限リニ非ザルハ論ヲ俟タザルモ本邦漁業船若ハ漁業者ニ対シ妨害ヲ加フルヲ許サス若シ本邦人ノ漁業經營方ニ關シ何等異議アル場合ハ自己ノ政權ヲ通シ帝國政府ニ交渉アルヘシ右何等誤解ヲ避クル為メ茲ニ警告ス

右通牒ス

追テ別紙ニ添付スヘキ甲乙号ハ既ニ送付済ノ事項ニ有之候間省略致シ候

(別紙)

官房機密第六五七号

大正十一年五月四日

海軍次官 井出 謙治

陸軍次官 尾野 実信殿

露領沿岸出漁邦人保護取締ニ関聯シ「メ」政

權ニ武器不交付ノ件

本年度露領沿岸邦人出漁ニ關シテハ自治出漁ヲ容認スルコトニ四月十五日閣議決定相成候ニ付テハ之カ保護取締ニ關

シ海軍、外務、農商務三省間ニ於テ協議ノ上別紙甲号ノ通決定致シ候處別紙乙号日進特機密第十四号日進艦長電報第二項ノ次第モアリ「メ」政權漁業監視用舟艇武装ノ為兵器彈薬ノ交付ハ閣議方針ニ違背スルノミナラズ漁業保護ヲ阻害シ紛擾ノ基ヲ為スモノト認メラレ候ニ付テハ右御承知ノ上「メ」政權ニ對シ兵器彈薬等ヲ交付セサル様派遣軍司令部其他關係ノ向ヘ必要ナル指示ヲ与ヘラル様特ニ御取計

外務次官 増原 正直殿
農商務次官 田中 隆三殿
本件ニ關シ別紙ノ通陸軍次官宛依命通牒旁照会致シ候間御承知相成度

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業關係雑件 一九

一三七

海軍次官 井出 謙治(印)
外務次官 増原 正直殿
農商務次官 田中 隆三殿
本件ニ關シ別紙ノ通陸軍次官宛依命通牒旁照会致シ候間御承知相成度

テ交讓妥協ノ精神ニ基キ協議シ來リタル処同政權側ハ其ノ最後ノ決答ニ於テ我方ノ要求事項中只漁区借区料競売最低価格ニ付僅ニ或程度迄讓歩セルモ其ノ他ハ何等特典ト認ム可カラサルモノナルニ不拘之等ヲモ特典ナリトシ之カ付与ノ条件トシテ事實精査ノ上ニ非ザレハ決定シ難キ未納借区料ノ納付ヲ強ヒタリ加之「メ」政權ノ右決答ニ對シ我當業者ガ競売參加上考慮ノ余日ナキコト明ナルニ拘ラス從来ノ懸案ヲモ無視シ四月四日競売ヲ断行シ而モ之ニ參加セル自國民ニ從來ノ規定ヲ無視セル不正ナル便宜ヲ与ヘ本邦人ノ引続キ租借セントスル重要漁区ヲ競落セシムニ至リタリ如斯ハ全ク「メ」政權カ我交渉ニ對シ誠意ヲ缺キタルモノト認ムルノ外ナシ仍テ帝國政府ハ一面斯ル競売ヲ有効ナルモノト認ムル能ハザルト共ニ他面白日露漁業協約ニ基ク既得権擁護ノ趣旨ニ依リ不得已機宜ノ措置トシテ帝國政府ノ公正妥當ト認ムル条件ノ下ニ露領水產組合カ同組合員ヲシテ自治的ニ出漁ヲ行ハシムルコトヲ容認シ之ニ對シテハ適當ト認ムル範囲ニ於テ帝國艦船ヲ以テ保護監督ヲ為ス可ク漁区借区料及其ノ他ノ公課金ハ從來ノ例ヲ按照シテ之ヲ定メ前記組合ヲシテ之ヲ徵収シ適當ノ機関ニ供託セシムルコト

右依命通牒旁照会ス

追テ日進艦長ニ対シテハ西比利亜艦隊參謀長ヨリノ申出ヲ拒絶スルト共ニ軍司令部ニモ交付セサル様一応申込み置クヘキ旨指令致シ候

一一〇 五月四日 在ハルビン山内總領事ヨリ

内田外務大臣宛

漁業問題ニ関スル「ルースキ、ゴロス」紙記

事訳報ノ件

(五月十五日接受)

公第一八〇号

大正十一年五月四日

在哈爾賓

總領事 山内 四郎 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

漁業問題ニ関スル新聞論調ニ関スル件

露領近海ノ漁業問題ニ關シ当地ルースキゴロス紙ハ別紙訳文ノ如キ記事ヲ掲載致候ニ付御参考迄右訳文御送付候

敬具

本信写送付先 浦潮總領事

交渉ハ論点トナレル漁区地方ニ実際的ニ監督ヲ施シ得ル政府ヲ相手トシテ行フヘシト答ヘタルカ此ノ監督權ヲ行使シ得ル政府トハ事実ニ於テ沿海州政府ヲ指セルモノニ外ナラス

然ルニ之ト同時ニ大連駐在ノ松島氏ハ知多代表ニ対シ日本ハ沿海州政府ト漁業問題ヲ議セサルヘク事實上ニ於テモ日本漁業家ハ入札參加ノ勧誘アリタルニ係ラス四月四日ノ漁区入札ニ加入セサリキト説明ヲ与ヘタリ
故ニ本問題ニ対スル日本ノ政策ハ正ニ漁区ニ対シテハ絶対ノ監督ヲ自己ノ手ニ收メ能フ限り勉メテ知多竝ニ浦潮ト論争ヲ避ケルタメ知多ニ対シテハ沿海州政府トハ漁業問題ノ交渉ヲ行ハスト約言シ一方ニ於テハ全然反対ノ誓約ヲ与フルト云フ方法ヲ執レルモノナリ日本人ハ四月四日ノ入札ニハ出頭セス破格ナル低価ヲ以テ不当利得ノ漁区ヲ自己ノ手ニ今尚抑保シツツアリ

露國ノ利益ト云フ見地ヨリシテ最モ喫緊ノ問題カ斯ク不公平ナル解決ノ儘存続サルヘキ筈ナク当然改訂セラルヘキモノトス

聞ク処ニヨレハ沿海州政府ト日本漁業者間ニ再ヒ何等カノ

漁業問題(一九二二年五月三日ルースキ、ゴロス)訳文

沿海州ニ於テ最モ人気ヲ沸騰セル問題ト云ヘハ西比利亜沿海ニ於ケル漁場貸下問題ニ指ヲ屈セサル可ラス本問題ハ最近ニ至リ殊ニ緊張セリ日本漁業家ハ四月四日ノ入札ニ参加区ヲ從前ノ条件ニテ保有營業スヘク而シテ彼等保護ノ為メセス内田外相ハ却テ沿海州政府ノ不誠意ヲ責メ日本人ハ漁区ヲ派遣セリト声明セリ

日本ノ積極的行動ニ対シテ露人ハ驚異ノ念ヲ以テ見往々物論ヲ起シツツアルカ事ノ茲ニ至レル顛末ヲ簡單ニ記述スレ

ハ尼港ノ慘劇後日本軍ハ非常ノ努力ヲ以テトリヤー・ピング一派ノ暴徒ヲ此地域ヨリ掃蕩シ當時未タ浦潮ニ反過激派政府ノナカリシ為メ布告ヲ以テ西比利亜領海ニ於ケル優良ノ漁区ヲ占領シタリ昨年成立セル沿海州政府ハ日本軍ニ対シ漁業問題解決ノ為メ交渉ヲ行フ必要ヲ力説セリ而シテ右ト相

前後シテ極東共和国政府モ亦漁場地区カ自己ノ領土ナリトシ漁業權ヲ主張シ大連ニ於テモ同様ノ声明ヲ為セリ

茲ニ日本政府ハ何者ヲ相手トシ交渉スヘキカトノ問題ニ逢着シ議会ニ於テモ問題トナリタルカ内田外相ハ漁業問題ノ

交渉後日セラルヘシト云フ

力ノ権利 (一九二二年五月三日ルースキ、ゴロス社 説) 訳文

ロイテル通信ハ極東ニトリ多大ノ価値アル記事即チ四月四日浦潮ニ於テ施行セラレタル漁区入札ノ結果ヲ無視セル日本ノ遺ロニ関スル記事ヲ掲載シタリ

初回ノ入札期ハ三月ト指定セラレアリシカ當時暴風雨ナリシタメ日本人ノ參加不能ヲ理由トシ日本領事ヨリ請求アリシヲ以テ入札施行ハ延期トナレルハ既定ノ事實ナリ而シテ四月初メニハ既ニ暴風雨ノ徵候モナク日本人モ充分四月四日ノ入札ニハ各國人ト相伍シテ參加シ得シニ係ラス日本人ハ加入セス漁区ハ大部分露人ノ手ニ落札シ新ニ漁区ヲ獲得セル企業者カ自己ノ権利ヲ使用セントスルヤ旧租借人タル日本人ハ漁区ヲ新所有主ニ交付スルヲ拒絶セリ然レ共コノ拒絶ハ政府ノ認可セサル各商人単独ノ行為トノミ思惟セラレタル處ロイテルノ報道ハ正ニコノ推察ヲ裏切り租借期限ヲ過キテ尚新租借者ニ漁区ノ交付ヲ拒絶シ不当ナル抑留ヲナス行為ハ日本政府ノ認許セルノミナラス政府ハ進ンテ漁場保護ヲ名トシ軍艦ヲ派遣セントス

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業関係雑件 一一〇

一三九

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業関係雑件 一二一

一四〇

日本ハ自己ニ從順ナル臨時沿海州政府ヲシテ三月ノ入札ヲ中止シ四月ニ延期セシメタル上更ニ漁区掠奪者ト一致ノ行動ヲ執リ自己ノ船舶ヲ以テ無力ナル沿海州ヲ威圧セント試ミツツアリ

臨時沿海州政府ハ実力ノ前ニ敵シ難キ為メ日本政府ノ斯カル不当行為ニ就テハゼノアハ國際裁判ニ嘆願セサルヲ得ス

英國人カ沿海州ニ於テ露國ノ漁場ヲ奪ヘル事例アリ偶々右ヲ以テ日本人ハ好餌トシタルナランモゼノアニ於テハ少ク

モ次ニ記ス事實ハ一般ニ周知セシムル要アリ

目下露国人ハ全ク無氣力ナリトモ列強カ少シ宛乍ラ露國ノ財源ヲ掠奪スル計画ヲ進メ居ルニ対シテハ充分其ノ真意ヲ推測シ得ラルコトヲ闡明セサルヘカラス

ロイテル通信中尚特記ニ值スヘキハ日本政府ハ臨時政府ノ不信ニ対シ攻撃シツツ在ルコト之レナリ無誠意云々ノ字句ハ日本外交家カ過激派及極東共和国ニ対シテ為シタル通牒及声明ニ好ンテ使用セルモノナルカ這回無誠意ニ対スル批難ハ極東ニ於テ過激派ト戰フ為メニ日本ト全ク利害ノ一致シ且ツ自己ノ弱勢ナル立場ヨリ日本ヲ支那トシテ待チツツアル其政府ニ向ツテ發セラレタリ日本ノ外交家ノロヨリ無

誠意云々ノ批難ハ寧ロ滑稽ナリ實際ノ處誠意ヲ必要トスル者何人ナルヤト云ヘハ日本人ヲ措イテ他ニアル筈ナシ

平等トイフ法則ノ下ニ行ハレタル入札ニ於テ露人ニ落札セル露人ノ漁業ヲ掠奪シ尚此ノ言ヲ為スニ於テハ寧ロ吾人ハ力ノ権利ニヨリカク行動スト直言スルニ優レルハナシ

ル露人ノ漁業ヲ掠奪シ尚此ノ言ヲ為スニ於テハ寧ロ吾人ハ力ノ権利ニヨリカク行動スト直言スルニ優レルハナシ

一二一 五月五日 内田外務大臣ヨリ 在ペトロパウロフスク緒方領事宛

本年度露領沿岸ノ漁業対策通報ノ件

通監機密第一号

本件ニ關シ曩ニ帝國政府ニ於テハ漁期切迫ニ伴フ當業者ノ不安ヲ除去スル為メ可成速ニ本年度露領沿岸ニ於ケル本邦人ノ漁業対策ヲ決定スルノ必要有之候ニ付關係地方ノ実情ニ基ク便宜措置トシテ「メルクロフ」政權ト右ニ關シ交渉ヲ試ミ來リ候處遂ニ右交渉ハ不調ト相成候為メ四月十五日閣議ニ於テ已ムヲ得サル機宜ノ便法トシテ別紙甲号ノ通り我方針ヲ決定シ右ニ基キ我當業者カ本年度漁業ノ經營ニ当ルコトヲ容認保護スルコト致候尚右交渉不調ノ要点等ニ就テハ大要別紙乙号通リ客月二十九日公表致置候條右貴官ノ御含迄此段申進候也

註1 別紙甲号ヲ省略ス同号ハ前出四月十九日附村上水產局長及古谷通商局長心得ヨリ前田露領水產組合組長宛通監普通第六〇九号ノ別紙甲号ト同文ナリ

2 別紙乙号ヲ省略ス同号ハ四月二十六日附内田外務大臣発在浦潮松村總領事宛別電第九三号ト同文ナリ

一二一 五月五日 前田露領水產組合組長ヨリ
古谷通商局長心得宛

(五月六日接受)

大正十一年五月五日

露領水產組合組長子爵 前田 利定(印)
(欄外註記)

外務省通商局長心得 古谷 重綱殿

本月三日通監普第六八四号ヲ以テ御承認相受ケ候大正十一

年露領出漁手続ハ本邦漁業者ノ関係スル漁区ニ対シ規定セ

ルモノニシテ從來露国人ガ經營シタルモノニ対シテハ右手

統ヲ適用シ得サル儀ト被存候處本年借区期間中及更新漁区

中當組合ガ該漁区関係露人ト協調ノ上右漁区ヲ經營方希望

ノ向渺カラズ候ニ付テハ左記ニ該當スル漁区ニ付テハ関係

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業関係雑件 一二二 一二三

一二三 五月六日 在浦潮松村總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

本年度本邦人ノ自治出漁ニ対シ浦潮政府ヨリ

抗議ノ件

別電 五月六日附在浦潮松村總領事発内田外務大臣宛

電報第一一七号

浦潮政府外交部長代理持參ノ口上書

第一一六号 (五月六日接受)

貴電第九二号ニ閲ン

外交部長ニ對シ浦潮政府ト帝国總領事館トノ間ニ行ハレタル本年度漁業問題ニ閑スル交渉不調ニ帰シタルニ依リ帝国政府ハ條約ニ基ク既得権擁護ノ趣旨ニ依リ已ムヲ得ス機宜ノ措置トシテ其ノ公正妥當ト認ムル条件ノ下ニ露領水産組合カ同組合員ヲシテ自治出漁ヲ行ハシムルコトヲ容認シタル旨簡単ニ回答シ置キタル處五月五日外交部長代理來館別電ノ通口上書ヲ交付セリ

(別電)

五月六日在浦潮松村總領事堯内田外務大臣宛電報第一一七号

第一一七号(別電)

(五月七日接受)

口上書

日本政府ヨリ漁業者ニ与ヘタル協約区域内ノ水面ニ於ケル自由出漁許可ニ関スル本年四月二十七日附貴信第九七号ニ対スル回答トシテ臨時沿黒竜政府ノ命ニ依リ左ノ通り通告

スルノ光榮ヲ有ス

一、日露両國間ニ漁業協約存在スルニ依リ日本政府及日本臣民ハ新条約ヲ以テ該協約ニ代フル迄協約ニ包含セラル条件ヲ嚴密ニ履行スルノ義務アリ日本臣民ハ臨時沿黒竜政府ト日本帝國政府トノ間ニ何等カノ特別協定成立シタルト否トニ拘ラズ右条件ニ基キテノミ露領極東ノ水面ニ於テ漁業権ヲ享有スルコトヲ得

二、然ルニ臨時沿黒竜政府ト日本帝國政府トノ間ニ数回ノ書面ノ往復ニ依リ該協約ノ効力存続ニ閑スル取極成立シ之ニ基キ沿海州方面ニ於ケル國家的露國政權ハ日本臣民ニ對シ漁業協約ニ依リ附与セラレタル權利ノ合法的享有及同協約ニ依リ課セラレタル要求及義務ノ履行ノ可能ナルコトヲ保障スルコトヲ同意シ且之ヲ快諾セリ

三、臨時沿黒竜政府ハ漁業協約ノ条件履行ノ為及日本政府トノ協定ニ依リ漁区競売ヲ三月二十八日ニ指定セリ然ルニ日本帝國政府ハ其後間モ無ク日本漁業家ガ競売ノ為適時ニ渡来スルコト能ハザリシコトヲロ実トシ競賣ヲ延期シ且漁業協約ニ於テモ亦露國法律ニ於テモ予想サレザリシ若干ノ特典ヲ日本臣民ニ附与セムコトヲ請求セリ沿黒

竜政府ハ友誼的感情ニ從ヒ日本政府ノ要求ニ応ジ其希望ノ大部分ヲ容レ競売ハ之ヲ延期シテ四月四日ニ指定セリ該期日ハ漁業者ノ利益ノ為損害ヲ來タスコトナク指定シ得ベカリシ最後ノ期日ナリシナリ

四、競売期日ノ数日前日本政府ハ更ニ沿黒竜政府ニ對シ協約ノ規定ニ由來スルニアラズ而モ政府ノ物質的利益ニ触ルル新ナル讓歩及特典ノ最後通牒的要求並競賣期日二週間延期ノ要求ヲ為セリ

五、臨時沿黒竜政府ハ日本政府ノ要求ニ於テ如何ニシテモ日露漁業協約ノ侵害ヲ沿黒竜政府ニ強ヒムトスルノ熱望及日本漁業者ノ為露領極東ノ水面ニ於テ違法且無償ニテ漁場使用ノ動機ヲ發見セムトスル明白ナル希望ヲ看取セザルヲ得ザリシニ依リ該要求ヲ容ルコト能ハザリキ競

売期日依然本年四月四日トシ同日競賣執行セラレ日本漁業者ハ競賣參加ヲ避ケタリ競賣ハ漁業協約及協約締結當時ノ一切ノ露國法律ヲ嚴守シテ執行セラレタリ

六、之ニ依リ自己ノ意志ニ依リ競賣ニ参加セザリシ日本漁業者ハ漁区ニ對スル一切ノ權利ヲ喪失シタルモノニシテ漁区使用ヲ許サルルコト能ハザルヤ明ナリ故ニ自國漁業

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業関係雑件

一一三

者ニ對シ競賣ニ依ラズ不法且勝手ニ漁区使用権ノ附与ニ關スル日本帝國政府ノ決定ハ国際法国際條約並露國ノ權利ヲ侵害スルモノニシテ露國ノ天然富源ヲ奪取スルノ企図ト看做スコトヲ得ベシ

七、一千九百二十二年日本政府ハ當時露領極東ニ在リタル事實上ノ地方政權ガ協約ノ要求スルトコロナル漁区競賣ヲ拒絶シタルニ乘ジ自國民ノ利益擁護ノ為露國水面ニ於ケル協約上ノ權利ヲ執行スルコトヲ自國民ニ許シタリトセバ千九百二十二年ハ臨時沿黒竜政府ニ於テ協約及法律ノ一切ノ条件ヲ遵守シタルニ依リ日本政府ハ露領極東ノ水面ニ於テ專擅的且不法ニ漁場ヲ使用スベキ何等ノ理由及根拠ヲ有セズ

八、上述ノ理由ニ依リ事實上ノ地方政權トシテノ臨時沿黒竜政府(同政府所屬領土ニ於ケル國家的利益擁護ノ權利ハ自然同政權ニ属シ該權利ハ漁業協約承認ノ取極確認ニ關スル要求ヲ日本代表者ヨリ沿黒竜政府ニ對シ提議シタル當時及露國水面ニ於ケル漁場ノ合法的使用問題ニ閑シ日本代表者ヨリ請求シタル當時ハ日本帝國政府ニ於テ毫モ承認セザリキ)ハ本年四月四日執行ノ競賣ノ為日本漁

一四三

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業、関係雑件 一二四

業者ガ権利ヲ喪失シタル漁区ニ於ケル専擅的漁業經營ノ許可ニ関スル日本帝国政府ノ決定ニ対シ抗議ス故ニ臨時

沿黒竜政府ハ遺憾乍ラ正當且合法ト認ムルコト能ハザルノナリ然ラザル場合ニハ沿黒竜政府ハ物質的力ニノミ基ケル不法行為ニ対シ露國ノ権利擁護ノ措置ヲ執ルノ已ムナキニ至ルベシ

註 右別電ノバラフレーズハ五月九日附通監機密合第二八一號ヲ以テ古谷通商局長心得ヨリ村上水産局長及海軍省軍務局長宛夫々送付セラレタリ

一二四 五月八日 在浦潮松村總領事ヨリ
内田外務大臣宛

本邦漁業者自治出漁ニ關スル新聞論評並右措

置ニ對スル反響報告ノ件

(五月十五日接受)

公第一〇七号 大正十一年五月八日

在浦潮斯德

總領事 松村 貞雄(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

(別紙)

強者ノ権利(五月七日刊行「ルスキー、クライ」所載)

路透ハ四月四日浦潮ニ於テ執行セラレタル漁区競売ノ結果ヲ否認セル日本ノ決定ニ關シ極東ニトリ重大ナル意義アル通信ヲ伝ヘタリ世人ノ知ル如ク競売ハ最初三月ニ定メラレタリシカ日本漁業家カ暴風ノ為競賣ニ渡来スルコト能ハサ有之候為御参考申進候 敬具

ルヘキコトヲ指摘シタル日本領事ノ請求ニ依リ延期セラレ四月ノ初ニハ暴風ナク日本漁業者ハ同月四日ノ競売ニ渡来シテ他ノ競争者ト共ニ角逐スルノ時日ヲ有シ且充分可能ナリシニ拘ラス今回日本人ハ競売參加ヲ避ケ漁区ハ大部分露人ノ競落スルトコロトナリ新借区者ニ於テ自己ノ権利ヲ行使セントシタル時旧借区者タル日本人ハ新借区者ニ対シ漁区ノ引渡ヲ拒絶セリ

然ルニ之レ單ニ日本漁業者ノ行為ニシテ政府ノ閑知セサルトコロト思察セサルヘカラサリシカ路透ノ通信ハスル予想ヲ打碎ケリ借区期限ノ満了後漁区ノ不法抑留擁護ノ為新借区者ニ対スル漁区引渡ノ拒絶ハ日本政府知悉ノ上之ヲ為スノミナラス同政府ハ不法手続支持ノ為軍艦ヲ派遣スルコトナリ斯ノ如ク臨時沿黒竜政府ハ三月ノ漁区競売ヲ四月四日ニ変更シテ快ク日本政府ノ希望ニ応シタルニ日本政府ハ横領者ト同一体トナリ軍艦ヲ以テ無力ナル沿海方面ヲ脅威スルコトナレリ臨時沿黒竜政府ハ腕力ニ服従スルコトヲ余儀ナクセラレタルヲ以テ日本政府ノ不法行為ニ関シ「ジユネーヴ」ニ於ケル國際最高裁判所ニ控訴セサルヘカラス

白海方面ニ於ケル英人ノ露人漁場ノ横領ハ日本人ニ対シ同

本邦漁業者自治出漁ニ關スル新聞論評送付
並ニ一般感情ニ關スル件

聞ニ「強者ノ権利」トシテ載セタル論評別紙ノ通訳出茲ニ及送付候尚本邦漁業者ノ競賣不参加及自治出漁ニ対シテ當地露國官民間ニ我政府ノ横暴ヲ憤慨スルモノ多ク殊ニ一般ノ官吏及官業労働者等右競爭入札ニ依リテ得ヘキ借区料ヲ以テ耶蘇復活祭ニ当リ從來延滞セル俸給ノ支払ヲ受クヘク期待シ居リタル關係上失望落胆ノ結果我國ヲ怨ミ政府幹部ハ所期ノ収入ヲ失ヒタル上ニ反対派ヨリ非難攻撃ヲ受クルコトトナリ自然我政府ノ措置ヲ怨嗟スルニ至リ延テ一般在留民ニ対スル感情著シク悪化セルハ遺憾ニ堪ヘザル次第ニ

一四五

本邦漁業者自治出漁ニ關スル新聞論評送付
並ニ一般感情ニ關スル件

聞ニ「強者ノ権利」トシテ載セタル論評別紙ノ通訳出茲ニ及送付候尚本邦漁業者ノ競賣不参加及自治出漁ニ対シテ當地露國官民間ニ我政府ノ横暴ヲ憤慨スルモノ多ク殊ニ一般

ノ官吏及官業労働者等右競爭入札ニ依リテ得ヘキ借区料ヲ以テ耶蘇復活祭ニ当リ從來延滞セル俸給ノ支払ヲ受クヘク期待シ居リタル關係上失望落胆ノ結果我國ヲ怨ミ政府幹部ハ所期ノ収入ヲ失ヒタル上ニ反対派ヨリ非難攻撃ヲ受クルコトトナリ自然我政府ノ措置ヲ怨嗟スルニ至リ延テ一般在留民ニ対スル感情著シク悪化セルハ遺憾ニ堪ヘザル次第ニ

有之候為御参考申進候 敬具

様ノ慾望ヲ喚起セリ現時無力ナル露國民ハ露國財產ヲ略奪セムトスル列強ノアラユル企図ノ明白ニ評価シツツアルコトヲ須ラク「ジュネーブ」ニ知ラシムヘシ 路透通信ニ於テ尚指摘ノ要アル一事態ハ即日本政府ガ臨時政府ノ「不誠意」ヲ非難セルコトニシテ之レ日本外交ノ「ボルシェウイキー」及「チタ」政府ニ対スル一切ノ通告及声明ノ得意ノ題目トナリ今回ノ不誠意ノ非難ハ極東ニ於ケル「ボルシェウイキー」トノ争鬭ニ於テ日露両國ノ利害合致セルノミナラス自己ノ微力ナル為日本ニ知ルヲ求メムトスル沿黒竜政府ニ向ケラレタリ 日本外交家ノ唱フル不誠意ノ非難ハ滑稽ト言フノ外ナク実際何人ニ誠意アルヲ要ストセハソハ日本人ニ之アルヲ要シ日本人ハ日本漁業者ニ対シアラユル尊敬ヲ払ヒテ執行セラレタル競賣ニ於テ露國人ノ競落シタル漁場ヲ横領シタルヲト言フヘキナリ

一二五 五月十二日 在浦潮松村總領事ヨリ

内田外務大臣宛

本邦漁業者ノ自由出漁ニ關スル當地新聞ノ評

論記事訳報ノ件

公第一一七号 (五月十七日接受)

大正十一年五月十二日

在浦潮斯德

總領事 松村 貞雄 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

本件ニ関シ「露国利益ノ擁護」ト題シ本日ノ「ルスキ一、

クライ」新聞所載ノ論評別紙ノ通リ訳出御参考迄及送付候

敬具

(別紙)

露国利益ノ擁護 (五月十二日「ルスキ一、クライ」

所載) 訳文

過般華盛頓會議ニ於テ日本代表者ハ露国領土不可侵ノ承認及西比利亞ニ於ケル何等カノ優越権ノ拒絶ヲ宣言セリ然ルニ日本ハ既ニ四月ノ末露国漁場ヲ奪取シ以テ事實ニ於テ華盛頓ニ於テ約シタル自國ノ義務ヲ侵害セリ

千九百七年露日漁業協約ニ依レハ日本臣民ハ露領極東ノ協約区域内ノ水面ニ於テ露国臣民ト均等ノ条件ニテ漁区競売ニ参加スルノ権利ヲ有ス

日本人ト「オムスク」政府トノ取極ニ依リ千九百七年ノ漁業協約ハ其ノ効力ヲ存続スルコトトナレリ

本年日本人ハ大ニ漁場ノ運命ヲ懸念シ在浦潮斯德日本總領事ハ沿黒竜政府ニ問フニ同政府カ千九百七年協約ノ遵守及「オムスク」政府トノ取極ニ依ル同協約ノ効力存続ヲ同政府ニトリ拘束のモノト認ムルヤ否ヤヲ以テセリ沿黒竜政

府ハ之ニ対シ是認的回答ヲ与ヘ競売期日ヲ通告セリ日本政府ハ右回答受領ノ後競売ヲ延期シ且協約ニモ又露国法律ニモ予見セラレサル幾多ノ特典ヲ日本臣民ニ賦与センコトヲ請ヘリ

就中日本人ハ濫獲的漁撈法ノ應用及漁区競売最低価格ノ六割低減ノ許可ヲ得ムコトヲ希望セリ

最低価格ノ指定ハ協約ニ依リ露國官憲ニ賦与セラレアルニ依リ沿黒竜政府ハ前記請求ヲ容ルルノ義務ナカリシト雖其ノ率ヲ若干低減シ且日本人ノ請求ニ依リ競売ヲ延期スルコトニ同意セリ

沿黒竜政府ハ日本人ノ請願ニ依リ五回競売ヲ延期シタルカ日本人カ第六回之ヲ請ヒタルトキ政府ハ之ヲ拒絶セリ競売ヲ更ニ延期センカ漁業者ヲシテ漁業準備ノ時日ヲ有スルコ

ト能ハサラシムヘキニ依リ拒絶ノ外ナカリシナリ三月二十八日競売ハ協約及露国法律ノ要求スル一切ノ条件ヲ遵守シテ執行セラレタリ

日本政府ハ漁区競売ノ適法ナリシコトヲ否認スヘキ何等形式上ノ理由及事實上ノ資料ヲ有セサリシコト明ナリ

然ルニ日本ノ「コルペーニフ」(粗野ナル小商人ノ意)等ニハ殆ト無料ニテ漁区ヲ有シ加フルニ濫獲的漁撈法ヲ應用スルコトヲ断念スルコト苦痛ナリキ

日本漁業者ハ日本政府ニ圧迫ヲ加ヘ同政府ハ露國官憲ノ許可ナク露国漁区ヲ使用スルコトヲ自國臣民ニ「許可」セリ日本政府ハ右「許可」ニ關シ沿黒竜政府ニ通知セリ

日本政府ハ千九百七年漁業協約、華盛頓會議ニ於テ約シタル自己ノ義務及露国主權ヲ侵害シ单ニ漁業者ノ一小団体ノ密漁的利益ノ為メ露国漁区ヲ奪取スルコトヲ「許可」セリ日本政府ハ日本ノ利益ノ為メニアラス唯日本「コルペーニフ」等ヲシテ余分ノ数十万円ヲ得セシメンカ為露国財産ノ略奪ヲ許可シ以テ露国ノ利益ノミナラス適法ニ漁区ニ対スル權利ヲ獲得シタル者ノ利益ヲ侵害セリ

吾人ハ日本新聞ノ好愛スル「人道」「誠意」ニ關シ回想ス

シ

一一六 五月十三日

磯村浦潮派遣軍參謀長ヨリ
尾野陸軍次官宛

露領沿海州出漁邦人ノ保護取締ニ關シメルク

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業関係雑件 一二六

一四七

大正十一年五月十三日 浦潮派遣軍參謀長 磯村 年
陸軍次官 尾野 実信殿

西密第五五号通牒ニ關シ左記及回答候也

左記

一、四月二十一日日進艦長軍司令部へ來訪昨二十日西比利亞艦隊參謀長ヨリ漁業監視ノ為メ来月上旬出動北航スヘキ五隻ノ小艦艇武装ニ要スル兵器交附方ニ付キ尽力方懇望シ来リシ趣ヲ以テ打合ス所アリシヲ以テ露艦艇ノ武装ハ啻ニ日露議定ニ抵触スルノミナラス自由出漁ト決シタル我漁業經營者ニ妨害ヲ与フル虞アルヲ以テ交附シ難キ旨ヲ答フル共ニ浦潮特務機關ヲシテ「メ」政權ニ注意ヲ与ヘシム首班「メ」ハ有權者カ其落札シタル漁区ヲ合法的手続ニ依リテ他人（外國人ヲ含ム）ニ譲渡スルハ支障ナク風評ノ如ク権利ナキ外國人力露國領海ニ密漁ノ場合ハ直ニ之ヲ政權ニ報告スヘキモ特ニ無益有害ナル紛争ヲ釀ササルコトヲ諭示セリ

二、以上ノ如ク現在ハ素ヨリ将来モ露國艦艇用武器ノ交附ヲナササルハ勿論他ヨリ流用ニ付キモ嚴ニ警戒監視シツツアリ

一二八 五月十五日 加藤海軍大臣ヨリ

内田外務大臣宛

居留邦人保護ノ為特務艦勞山ヲオコヅク海方

面へ派遣ノ件

官房機密第七二二号ノ四

（五月十六日接受）

大正十一年五月十五日

海軍大臣男爵 加藤 友三郎（印）

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

特務艦勞山「オコヅク」海方面警備巡航ノ件

本件ニ關シ別紙ノ通佐世保鎮守府司令長官ニ訓令致シ候右通牒ス

（別紙）

官房機密第七二二号

大正十一年五月十五日

海軍大臣男爵 加藤 友三郎

佐世保鎮守府司令長官 財部 彪殿

特務艦勞山警備巡航ノ件

一、特務艦勞山ハ準備完成セハ居留本邦人保護ノ為六月上旬内地発約一ヶ月ノ予定ヲ以テ堪察加半島西岸南部及

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業関係雑件

一二八

不正漁業者ノ取締ニ訓令方依頼ノ件

ク緒方領事ニ訓令方依頼ノ件

（五月十五日接受）

十一局第九五八号

大正十一年五月十五日

外務省通商局長殿

農商務省水產局長（印）

本年露領ニ出漁スル本邦人ニ付テハ各出港地ニ於ケル警察又ハ稅關官署ニ於テ出漁證明書ニ依リ出漁船ノ目的地ニ付之カ取締ヲ為スト雖モ本年開始セラレタル函館ペトロバウロフスク間定期補助航路ニ依リ漁業ニ必要ナル人員及物件ヲ輸送シ更ニ該地ヨリ容認シ得ヘカラサル漁区ニ転送シ之ヲ經營スル者アルニ於テハ不正漁業者ノ取締上遺憾ノ次第ニ付ペ市駐在帝國領事ニ於テ右定期船及其他ノ船舶ニ依リ該地ニ輸送セラル漁業用貨客ノ再仕向先等ニ付常ニ注意セラレ可能の範囲ノ取締ニ任セラレ候様致度候条可然御訓令相成度此段及照会候也

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業関係雑件 一一九

一五〇

陸戦隊揚陸及帰還ノ場合其他兵力行使ノ場合ニ在リテハ其旨速ニ報告スルコト

(イ) 警備上要スレハ巡航中居留本邦人ヲ艦内ニ収容シ若クハ便乗セシメ差支ナシ又情況止ムヲ得サル場合ニ於テ

ハ露人其他外國人ヲ艦内ニ収容スルコトヲ得接之ヲ指令ス又警備關係事項ハ隨時直接本大臣ニ報告

(カ) 内地港湾出発後ノ行動ニ関シテハ情況ニ応シ本大臣直スルコト

三、行動ヲ予定セシメ報告スヘシ

右訓令ス

一二九 五月十八日 在浦潮松村總領事ヨリ
内田外務大臣宛

日本ノ露領沿岸漁業対策ニ抗議スル沿海州商

工會議所委員会決議文訳文送付ノ件

公第一二二号 (五月二十三日接受)

大正十一年五月十八日

在浦潮斯徳 総領事 松村 貞雄 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

本件ニ關シ今回沿海州商工会議所委員会決議文ヲ送附シ來リタルト同時ニ帝国政府ニ報告方依頼越候ニ付別紙ノ通リ訳出茲ニ及送附候 敬具

(別紙)

(訳文)

千九百二十二年五月十五日附沿海州商工会議所

委員会決議

沿海州商工会議所委員会ハ本年五月十五日ノ會議ニ於テ堪察加ニ於ケル本年漁期利用ノ為日本官憲及日本漁業者組合ノ執リタル措置ニ関連シ極東協約圈内ノ水面ニ於ケル漁撈狀態ニ關スル露國漁業者ノ一団及極東漁業組合委員会ノ申告ヲ審議シ左ノ事情ヲ指摘スルコトヲ必要ナリト認ム

一、露國ハ千九百七年日本ト締結セル協約ニ依リ日本臣民ニ對シ露国人ト均等ノ条件ニ於テ「オホツク」堪察加沿岸ニ於ケル漁業権ヲ賦与セリ、日本臣民ニ對スル此排他的権利ハ吾人ニ取り不成功ナリシ千九百四、五年戰役ノ結果賦与セラレ而カモ十二年間ニ限ラレタルモノナリ該

期限ハ露国内亂中ニ満了シ同協約ノ効力ハ千九百十九年「コルチャック」提督ノ政府ト日本政府代表者トノ協定ニ依リ千九百十四年乃至千九百十七年ノ大戰中加ヘラレタル一切ノ追加及改正条項ト共ニ「オムスク」政府ニ於テ自働的ニ之ヲ延長セリ、同協約ノ効力ハ元極東臨時政府タリシ沿海州「ゼムストウオ」參事会ニ於テモ亦之ヲ確認セリ斯ノ如ク露領ノ水面ニ於ケル日本臣民ノ漁業権ニ關シ日露兩國ノ相互的關係ハ條約的關係即千九百七年ノ協約ヲ基礎トシ該協約ノ両当事国ニ對スル法律的拘束力ハ今日尚存続シ日本政府モ亦之ヲ否認セス本年日本政

府ハ沿黒竜政府ニ對シ在浦潮日本總領事ヲ介シテ質問スルニ同政府カ千九百七年協約及同協約存続ニ關スル「オムスク」政府トノ取極ノ履行ヲ自己ニ取り義務的ト認ムルヤ否ヤヲ以テセシカ肯定的回答ニ接シタル後漁区競売ノ延期及日本人ニ對シ幾多ノ新特典ノ賦与ヲ請求セリ二、「オホツク」堪察加地方ヲ包含スル領域内ニ於テ國家的権力、露國ノ権利及義務ノ一切ヲ掌握スル臨時沿黒竜

政府ハ日本政府ニ對シアラユル可及的讓歩ヲナシ同政府ノ請求ニ依リ數回競売ヲ延期シ漁区最低価格ヲ低下シ日

三、日本政府ハ協約ノ条件ニ依リ日本臣民ヲシテ協約ニ定メラレタル規定ヲ嚴密ニ履行セシメムカ為一切ノ措置ヲ執ルノ義務アルニ拘ラス日本漁業者ノ一小団ノ為セル露國国民的富源ノ掠奪ヲ弁疏シ且兵力ヲ以テ其ノ掠奪ヲ援助シツツアルカ此等ノ行為ハ露骨ナル權利ノ蹂躪、露骨ナル暴行ニシテ國際法及國際關係ノ見地ヨリシテ何等ノ弁疏ヲ要セサルナリ

四、日本ハ露國ト交戦狀態ニアルニアラサルノミナラス、好機會ノ都度露國領土不侵略ノ承認及露國主權ノ尊重ヲ

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業関係雑件 一二九

一五二

宣言スルニ拘ラス露國極東領土ニ対スルコト恰モ占領地ニ対スルカ如シ、サレト占領地ニ於テモ私有財産權及個人ノ權利ハ確乎タル國際法ニ依リ不可侵ナルニ拘ラス日本政府ハ自國臣民ニ対シ武力的保護ノ下ニ自由出漁ヲ許容シ以テ露國漁業者ヲシテ本年四月四日適法ニ成立シタル競売ニ於テ取得シタル租借權ノ実現ヲ全然不可能ナラシム何トナレハ日本ノ掠奪者ハスル漁区ノ何レヘモ日本兵力ノ護衛ノ下ニ現ハルルコト有リ得ヘケレハナリ右ノ場合ニハ衝突ハ避クヘカラサルコトニテ其結果タル予想スルニ難カラス即競落セル漁区ニ赴キタル露國漁業者ハ租借料、漁業準備漁夫雇入漁夫及貨物ノ堪察加ヘノ輸送等ニ対スル費用ヲ失ヒタル上日本人ニ対シ漁区ヲ讓渡残置スルコトナルヘン

五、日本人ノ露國「オホツク」堪察加沿岸漁場略奪ニ關スル問題ハ列強カ千九百十八年各其ノ宣言ニ於テ保障シタル露國ノ領土不可侵權、独立權及主權ヲ日本ニ於テ侵害シタルコトニ関スル一般的問題ノ一部タルニ過キス、露國民露國輿論ハ千九百二十年以來日本カ何等法の根拠ヲ有セスシテ漸次露國領土ヲ公然掠奪シ露國ノ主權ヲ減縮

シツツアルコトヲ目撃スル者ニシテ露國々民的生存ノ保護ニ關シテハ宣言ニ正反対ニシテ且露國々民的利益ニ背反スル目的ヲ實際ニ追求シツツアル日本政府ノ保証ニ信露國ノ權利及其ノ市民ノ私權ヲ主張スルコト實際不可能ナリ故ニ斯ル狀態ニ於テハ露國市民ハ經濟的性質ヲ有スル公共團體ヲ介シテ自己ノ經濟的權利及利益ヲ防護シ以テ極東ニ於ケル露國ノ權利及主權ノ尊重ニ關シ華盛頓會議ニ於テ日本代表者ノナシタル保証ニ反シ、自國ノ義務國際法及基礎的國際正義ヲ侵犯スル日本ノ前記行為ニ對シ前記公共團體ヲ介シテ露國領土ノ不可侵ヲ保障シタル列國代表者ニ向ヒ抗議ヲナスノ外ナキナリ
沿海州商工會議所委員会ハ叙上ノ事情ヲ考量シテ左ノ通り決議セリ

一、前掲日本政府ノ行為ニ対シ極力抗議ヲナスコト
二、本抗議ハ臨時沿黒竜政府ニ於テ露國國民的財產掠奪ノ防遏及踩躡セラレタル露國市民ノ私權並利益ノ保護ノ為断乎タル措置ヲ執ラムカ為之ヲ同政府ニ通告スルコト

三、本抗議並該問題ニ關スル材料ヲ日本政府及東京駐在ノ露國ノ友好國代表者ニ提出スルコト並本問題ニ關シ直接

説明ヲ与フルコトヲ會議員「ベ、エ、ブリー・ネル」及極東漁業者組合員「ア、ダ、デムビー」ニ委任スルコト

四、本抗議ヲ米、英、仏、伊、支、各國領事及浦潮斯德領事団ニ通知シ各本国政府ニ対シ至急之カ通報ヲ請フコト

五、會議所ノ執リタル措置ニ關シ在華盛頓露國大使「ベ、コフ」ヘモ亦通告スルコト

六、本抗議ハ之ヲ地方及外國新聞ニ發表スルコト

一三〇 五月十九日 在浦潮松村總領事ヨリ
内田外務大臣宛

本邦漁業者ノ自由出漁ヲ非難セル「ルスキ」、
「クライ」新聞記事送付ノ件

公第一二三号

(五月二十三日接受)

大正十一年五月十九日

在浦潮斯德

一三〇

総領事 松村 貞雄（印）
外務大臣伯爵 内田 康哉殿
本邦漁業者ノ自由出漁ニ關スル新聞記事送付ノ件

本件ニ關シ近刊「ルスキ」、「クライ」新聞ニ掲載セル論評及内閣議長ノ新聞記者トノ会見談別紙ノ通り訳出御参考迄茲ニ及送附候 敬具

（別 紙）

（訳 文）

弁解無シ （五月十六日「ルスキ」、「クライ」所載）

失敗セル大連會議ノ賛成者内田氏ノ外務省ハ自己弁解ヲナスコトニ決セリ、即チ四月二十八日附ヲ以テ露國漁場横領ノ理由ニ關スル声明ヲ發表シテ内田氏ハ手際ヨク此問題ヲ実行シタリ

日本政府ノ我漁区横領ハ狂暴且掠奪的ナリ、斯ル横領ノ由因ハ日本「コルバエフ」連（粗野ナル小商人ノ意）ヲ援助シ数万円ノ利ヲ掠取シ更ニ漁業ヲ掠奪セントスル希望以外日本政府ハ有セサリキ而テ又有セサルナリ
日本人ニヨリテ為サレタル横領ノ事情ヲ知ルトコロノ縦ノ者ニハ事件ノ真相明白ニシテ日本外務省カ漁場横領ノ弁解

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業関係雑件 一三〇

一五三

トシ確固タル實在的資料ヲ日本人ニ於テ有スルコトヲ確信セシメ得ル朴直ナル人ヲ或處ニ見出サント努力シツツアルハ尤ノコトナリ、斯ル朴直ナル人ヲ搜サンカ為メ日本外務省声明ノ發表サレタルハ疑ヲ容レサルトコロナリ

吾人ハ下ニ各部長會議議長「エフレモフ」氏トノ会談ヲ記

載セリ、此ノ会談ニヨリテ観ルニ内田氏ニヨリテ為サレタル總ノ前提ハ之ヲ素直ニ言ハバ事實ニ適応セサルコト明ナリ、實際的資料（例ヘバ数回ノ競売延期）ハ「エフレモフ」氏ノ説明ナクトモ一般周知ノコトナルニモ不拘之ニ対シ日本外務省ハ自己ノ弁解ヲ成サント試ミツツアルナリ内田氏ハ事實ナルモノハ容易ニ明白ニ定メラレ得ヘクスケテ外務省カ真実ナラサル材料ニヨリタルコトヲ看破セラルコトアルヘキコトヲ自認セサルヲ得サルナリ

然ルニ明ニ真実ナラサル材料ニヨリタル外内田氏ノ声明ハ其ノ弁解探査ノ為メ日本人ニ対シ「特典ノ缺如セルコト」ヲ引証セントスル朴直ナル企団ヲナセリ、然モ單ニ漁業協約ノ遂行ニ限り引証スルコトヲ許容サレ得ルコトヲ忘却セ

リ、日本外務省ノ声明作者ハ非難ラヌニ当リ脱線ヲナシ漁場横領ノ由因トシテ漁区競売參加者タル露国人ニ対シ保

証金ヲ銀行小切手ニテ納入ノ権ヲ与ヘタルコト即日本漁業者自ラノ要求ニ係ルコトヲ引証セリ、此ニ依レハ内田氏ノ所信ハ甚タ明白ニシテ競売ニ際シテ日本人ニ提供サレタル好都合ノ条件ハ露國漁業者ニ於テ之ヲ利用シ得サルモノトナシ居ルモノナリ

只此ノ一引証ニヨリテ露國漁場ノ利用ニ際シ日本人ニハ露國人ニ比シ多クノ特典享有ノ必然的ナルコトカ内田氏ノ明白ナル希望及自信ナルコトヲ心理的ニ知ルニ充分ナリ四月二十八日附日本外務省声明ハ予想セル目的ヲ達シ得サルナリ、然レトモ該声明ハ日本人力漁場横領ニ対シ形式的將タ論理的資料ヲ有セス且ツ又日本外務省カ自己弁解ノ為ニ明ニ不真実ニシテ非論理的ナル資料ヲ採用セサルヲ得サリシヲ証シテアマリアルモノナリ

日本人ノ露國漁場横領（イ、エス、エフレモフ氏トノ会談）

（五月十六日「ルスキ」、クライ）所載

日曜日ノ浦潮日報ニ日本人ノ露國漁場横領ノ理由ニ関シ日本外務省ノ声明記載サレタリ、吾社記者ハ各部長會議議長「エフレモフ」氏ニ対シ日本外務省ノ声明ニ引用セル日

本人ノ漁場横領ノ理由ノ根拠ノ有無ニ關シ質問セリ

「イ、エス、エフレモフ」氏ハ次ノ如ク答ヘタリ

日本外務省声明第一項ハ全然事實ニ適応シ居ラス、第二項ノ指摘モ亦真ナラス如何トナレハ閣議ハ日本漁業家等ノ請願ヲ容レタレハナリ

日本外務省声明中第三項ノ中ニモ亦正シカラサル情報ヲ与ヘ居レリ、如何トナレハ漁業協約中ニハ日本人ノ濫獲的漁獲ノ為メ懇願セル「改良網」使用ハ之ヲ嚴重ニ禁止シアレハナリ

第四項ニ闕スルモノノ如キハ極メテ無邪氣ナルモノナリ、即チ協約及露國法律ハ露國官憲ニ対シ口頭及入札併用ノ競売ヲ施行スルノ權利ヲ与ヘ居レリ、此ノ競賣方法ハ日本漁業者ニ対シテ何等ノ不便ヲモ与ヘタルコトナク又与ヘサルナリ、如何トナレハ此處ニハ露國漁業者モ日本漁業者モ共ニ同シ条件ノ下ニアルカ故ナリ、日本漁業者ノ一部カ相殺ノ方法ニ依リ若干額ヲ政府代表者ニアラスシテ個人ニ支払

タリトノ指摘ハ眞面目ナル反駁トナラス且ツ斯ル供述ハ何等根拠ナキコトナリ何トナレハ未納金支払ニ闕シテ日本漁業者ハ何等証拠ヲ提出セサリシナレハナリ

云々

日本漁業者カ競賣ニ参加ノ為メニ間ニ合フヘク到着スルコトハ不可能ナリシトノ指摘ハ予ヲ甚シク驚カシメタリ、競売ハ沿黒竜政府ニヨリ一月中ニ取決メラレタリ而シテ在浦潮日本總領事ノ請願ニヨリ六度之ヲ延期セリ最後ノ度ニ於テ日本人ハ更ニ十日間ノ延期ヲ請ヘリ然レトモ吾人ハ六日間ノ期日ヲ提供セリ夫ハ日本漁業者カ浦潮ニ到着センカ為ミニハ全ク充分ノ時日ナレハナリ

外務大臣声明中ニ表示サレタル露國漁業者ニ賦与シタル保證金ヲ小切手ニテ納入スル件ニ闕スル不滿ハ驚異スルトコロナリ如何トナレハ日本人自身カ該權利ノ賦与方ヲ請願シ、シカモ吾人ニヨリテ受諾ノ回答与ヘラレ居ルガ故ナリ云々

一三一 五月十九日 村上農商務省水產局長、古谷外務省通商局長心得ヨリ
前田露領水產組合組長宛

露人關係漁区ニ出漁容認方請願ニ対シ不承認
ノ旨通達ノ件

附記 右不承認ノ理由説明

本月五日付発第五四五号ヲ以テ請願相成候露人関係漁区ニ出漁方容認ニ関スル件了承然ルニ右ハ本年度露領沿岸ノ漁業対策ニ關スル閣議決定ノ趣旨及方針ニ反スルモノニ付容認難相成候条右ニ御了知相成度此段申進候也

(附記)

出漁容認方請願不承認ノ理由説明

本件請願ノ漁区ニ對スル本邦人ノ出漁ハ四月十五日ノ閣議ニ於テ本邦人ノ既得権及之レニ準スル權利ノ擁護ヲ趣旨トシ決定セラレタル方針ニ反シ且右漁区中從来露人ノ租借シタルモノニシテ大正九年又ハ同十年満期ノ漁区ニ關シテハ本年四月四日ノ漁区競売ニ於テ競落シタルモノト否トヲ問ハス該競売ノ結果ヲ有効ト認メサル帝國政府トシテハ露國當局カ自国人ノ本年ノ出漁ニ對シ帝國政府ノ決定シタル方針ニ準シタル態度ニ出テサル限り正当ナル借区者若ハ之レニ代ルヘキ権利者アリトハ認ムルコト能ハス從テ表面上協調ハ之レヲ行フコト能ハサルモノトス又露人ノ借区期間中ニ屬スル漁区ニ付テハ當該露人ト協調スルニ於テハ本邦人ノ出漁ハ一応差支ヘナキカ如ク認メラルモ是亦前記閣議決定ノ趣旨ニ反シ且ツ前田組長ノ報告ニ依レハ組合員ニニ

ハ此ノ種ノ出漁希望者無キ由ナリ
依テ本件請願ノ義ハ之レヲ容認セサルコト致度
一三一 五月二十一日 内田外務大臣ヨリ 在ペトロバウロスク緒方領事宛(電報)

不正漁業者ノ取締ニ關シ指示ノ件

第一六号

本年ヨリ開始ノ貴地内地間定期航路ニ關シ露領水産組合員若ハ非組合員ニシテ漁業經營ニ必要ナル貨物又ハ漁夫ヲ右定期船ニテ貴港ニ輸送シ置キ而シテ右輸送者カ他船ヲ雇ヒ自治出漁手続ニ依ル借区料ヲ預託スル等ノ手続ヲ履マスシテ貴港ニ直航シ右ノ貨物又ハ漁夫ヲ積取り或漁区ニ廻航スルカ如キ所謂ル密漁ヲ企図スル者アルヤモ計ラレサルニ付右ノ御含ヲ以テ貴港出入ノ船舶ハ勿論定期船ノ陸揚ケ又ハ積入貨物ニ關シ特ニ御注意アリタシ

一三三 五月二十三日 在浦潮松村總領事ヨリ

内田外務大臣宛

本邦漁業者ノ露領沿岸自由出漁ニ關スル外交
部ノ新聞発表送付ノ件

公第一二五号 (五月二十九日接受)

大正十一年五月二十三日

在浦潮斯德

總領事 松村 貞雄(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

本邦漁業者ノ露領沿岸自由出漁ニ關スル外交部ノ

抗議送付ノ件

本件ニ關シ今回当地諸新聞ニ「外交部ノ抗議」ヲ掲載致候ニ付別紙之通訳出御参考迄茲ニ及送付候 敬具

追而浦潮日報(露文版)ニ掲載セル外務省公表中ニハ誤

訳ノ点少カラス就中其ノ第一項第二項ノ如キハ殆ント全ク反対ノ意義ニ訳出サレ居リ外交部ハ其ノ抗議中ニ斯ル誤訳ノ条項ヲ根拠トシテ立論シ居ル点間々有之候間右御承知ノ上御閱読相成候様致度此段申進候也

(別紙)

(訳文)

露國漁場強奪ニ對スル抗議(五月二十一日當地諸新聞所載)

年度ノ租借条件ニテ漁区ヲ利用スルノ権利ヲ与フルコトヲ得タリシニ止リ漁区ノ存在スル領域ノ露国々庫ヘ借区料ヲ納付スルノ義務ヲ毫モ免除シタルモノニアラス
沿黒竜政府ハ本年適法主義ト條約厳守主義トニ則リ千九百七年漁業協約ノ一切ノ要求ヲ履行スヘク故ニ本年ノ漁区借区權ニ対シ漁区競売ヲ執行スヘキコトヲ公表シ其ノ旨日本政府ニハ適時ニ公然ニ通告ヲナセリ

該競売ハ協約ノ予見スルトコロニシテ協約ハ露国行政官並日本漁業者ノ權利義務ヲ嚴定セルニ依リ本来ヲ言ヘハ該問題ニ関シ日本、沿黒竜両政府間ニ何等カノ協定ヲナスノ必要毫モナカリシナリ、然ルニ日本政府ハ在浦潮斯德自國總領事ヲ介シ客年十二月二十九日附口上書ヲ提出シ以テ外交部ト交渉ヲ開始セリ該口上書ニ於テ同政府ハ先ツ以テ千九百七年漁業協約ノ効力ノ相互承認ニ関シ沿黒竜政府ト約定セントセリ

但シ同口上書ニハ亦協約ヨリ出ルニアラサル若ハ直接協約ニ抵触スル幾多ノ要求ヲ提示シアリキ

前記口上書ニ提示セラレタル要求ハ交渉ノ端緒トナリ沿黒竜政府ハ漁業協約ノ効力ヲ確認シタルノミナラス協約ヨリ

出ルニアラサル日本政府ノ要求ノ若干ヲ喜ンテ迎ヘ交渉中自國ノ物質的利益ヲ侵害シテスラ可及的讓歩ヲナサントスル友情ノ最高度ト無限ノ準備トヲ示シ以テ前記口上書ニ掲ケタル要求ノ大部分ヲ容レタリ、千九百二十二年一月二十四日附第二七号ノ日本總領事ノ声明ト之ニ對スル臨時沿黒竜政府外交部長ノ回答トニヨリ完全ナル協定成立セリ、然ルニ若干時ヲ経タル後日本政府ハ新要求ヲ提示シ、同時ニ日本漁業者ノ申請書提出期限ノ延期ヲ主張シ以テ適当ノ時期ニ競売ヲ執行スルノ可能ヲ遷延セリ

二月末遂ニ成立シタル日本、沿黒竜政府ノ相互協定ニ依リ漁区競売期日ヲ三月二十八日ト定メタリ然ルニ該期日ノ數日前日本政府ハ幾多ノ要求ヲ提示セシカ該要求中ニハ漁区評価ノ五割低減、若干漁区ニ対シテハ五割以上ノ低減及競売期日ノ延期ヲ含メリ、漁業庁ハ右要求ヲモ容レ漁区評価ヲ二割五分タケ低減シ競売期日ヲ四月四日ニ変更セリ、然ルニ同期日ノ二日前日本政府ハ更ニ競賣期日二週間ノ延期ヲ要求シ且最終通牒的形式ニ於テ幾多ノ要求ヲ提示シ其ノ容レラレサル場合ニハ自由行動ヲ執ルヘシト脅威セリ、斯

ル最後通牒ノ提示カ根拠ヲ有セシテ沿黒竜政府ニ取り侮辱的ナルノミナラス尚日本政府ハ日本漁業家ヲシテ競売ニ來ラサルコトヲ得セシムカ為理由ヲ得ムトシツアルコト明白ナリ他面ニハスル要求ノ容認ハ本來ヲ言ヘハ協約ニ於テ禁止シアリ、且嘗テ日本ノ水面ニ其ノ例アリシ如ク「オホツク」堪察加沿岸ニ於ケル魚類ヲ滅尽スルノ虞アル濫獲的漁撈法ヲ適法ナラシムモノナルニ依リ沿黒竜政府ハ競賣期日ノ延期ノ全然無目的ナルコト及該延期ヨリ漁業者ノ被ルヘキ困難ヲ看取シ日本政府ニ対シ競賣ハ指定ノ期日ニ之ヲ執行スヘキ旨回答シ改良網許可ノ要求ハ協約ニ抵触スルモノトシテ之ヲ拒絶セリ、競賣ハ指定ノ期日ニ日本漁業家ノ参加ナク執行セラレタリ日本漁業家カ自己ノ希望ニヨリ競賣ニ現レサリシト漁業厅ニ於テ協約ノ一切ノ要求ヲ遵守シタルトニ依リ日本漁業者ハ自ラ漁業ノ合法的經營ヲ不可能ナラシメタリ、然ルニ若シ日本漁業者カ漁区ヲ占領シ漁撈ヲナスヘシトセハ密漁者及刑事犯罪者ト見做サレ制裁ヲ受クヘク且罰金刑ヲ科セラルヘシ、沿黒竜政府ハ右見解ヲ支持シ且之ヲ主張スヘシ外交部ハ日本外務省ノ公表ニ対シ左ノ指摘ヲナスコトヲ認ムルモノナリ

一、第一項ニ於テ外務省ハ沿黒竜政府ニ於テ魚族繁殖費ニ関スル特典ヲ廢止シタリト云ヘリ
右声明ハ事実ニ相違シ日本總領事ノ申請ニ依リ外務省ノ云為スル税ハ吾人之ヲ廢止シタリ（三月二十五日附書面第八二三号）
二、外務省ハ吾人カ第二項ニ於テ副網ニ対シ建網二割五分曳網一割五分ノ料金ヲ徵収シツアリト言ヘリ
之レ亦事実ニ相違セリ該料金廢止ノ要求ハ日本總領事ノ書面中ニ記入シアリテ其ノ要求ハ容レラレタリ（三月二十五日附書面第八二三号）

三、外務省公表ノ第三項ニ於テ沿黒竜政府ノ同意セサリシ改良網ノ使用ハ協約ニ抵触セスト言ヘリ
若シ之ヲ然リトセハ本問題ヲ提起スルノ必要何故ニ生セシヤ、外務省ハ協約締結セラレテヨリ以來該網ハ常ニ禁止セラレ居リ之ヲ使用シタル違反者ハ制裁ヲ受ケ網ハ破壊セラレ居リシコトヲ附言スルノ必要アリシナリ、日本外務省ハ十四年間該網カ協約ニヨリ許可セラレサルコトニ同意シ居リシカ第十五年ニ於テ何故カ之ヲ認メサルナリ

四、日本外務省ハ第四項ニ於テ日本漁業者ニ取リ混合競売法設定ノ不便ヲ訴ヘ「之レ漁業者ヲシテ自ラ競売ニ渡来スルコトヲ余儀ナクセム」ト言ヘリ

一体競売ニ出テス若クハ代理者ヲ送ラスシテ如何ニシテ競売ニ参加スルヲ得ヘキヤニ関シ外務省ノ説明ヲ得ムコト大ニ趣味アルヘシ右ハ多分日本法律ニ依レハ可能ナルヘシ、然ルニ右ノ場合ニ於テ日露両國漁業者ニ対シ拘束力アル露國法律ハ既ニ多年存在シ是迄常ニ適用セラレ未タ曾テ斯ノ如キ異議ヲ受ケタルコトナシ、サレトスル考量ニ関係ナク日本政府ハ自ラ口頭競売ヲ請求シ而カモ口頭競売ハ漁業者若ハ其ノ代理者ノ直接参加ナクテハ不可能ナルニ鑑ミ最早日本漁業者ノ自身渡來ノ必要ノ不便ニ託言スルコト能ハス外務省ハ前記諸項ニ加フルニ漁業庁ノ定メタル漁区最低価格ハ「日本漁業者ノ希望ニ一致ス」トノ極テ価値アル承認ヲ以テセリ

該声明ノ意義ハ吾人ノ容レサリシ日本政府ノ最後通牒的要求ニ丁度漁区評価ノ低減ニ關スル要求ヲ包含シ而モ該評価ハ吾人カ今ヤ公表ヨリ知ルカ如ク評価ヲ抵減セストモ「日本漁業者ノ希望ニ一致スル」程既ニ低価ナリシコトヲ吾人

ニ於テ述フルトキニノミ全ク判明スヘシ、斯ノ如ク日本政府カ沿黒竜政府ト交渉ヲ行ヒツツ如何ナル目的ヲ有セシカヲ了解セムトスルニハ前記声明中ノ一ニテ充分ナリ

公表ニハ「頻発ノ革命ノタメ漁場ヲ監理スル長官ノ変更シタルコトヲ」言ヘルカソハ全ク事実ナリ此等長官ハ通常革命ナクトモ変更スルモノナリサレト該変更カ外務省ノ考フルカ如ク如何ニシテ日本漁業家ノ未納金支払ヲ免除シ得ヘキカヲ了解スルコト至難ナリ、露國領事ノ徵収ニ係リ且貨幣価格ノ減縮令施行マテ提出セラレタル未納金ハ支払勘定中ニ入レアリ元漁業庁長官「ラウロフ」及元漁業協議会議長「パンテレーフ」ハ何人ヨリモ如何ナル未納金ヲモ受領シタルコトナシ、兎ニ角総領事ニ送リタル表ニハ一切ノ未納金ノ徵収セラレタルハ控除シアルナリ

更ニ日本ノ公表ハ沿黒竜政府カ僅ニ数日前競売ニ關スル通知ヲナシタルニ依リ日本漁業家ハ期日迄ニ渡来スルコト間ニ合ハサリシト言ヘリ、實際出願書提出期日ハ専ラ日本政府ノ請求ニ依リ十二月ヨリ三月迄四ヶ月間五回ノ延期ヲナセリ、尚競売ハ日本政府トノ協定ニ依リ三月二十八日ニ定期タルコト上述ノ如ク其ノ後亦同政府ノ願ニ依リ延期セラ

レタリ、故ニ日本漁業者ノ適時渡來不可能ナリシトノ弁疏ハ根拠ヲ有セス、但シ該弁論ハ若シ之ヲ正当トセハ一切ノ他ノ弁論ヲ必要トセサルコトヲ指摘セサルヲ得ス公表ハ更ニ競売ニ於テ小切手ヲ以テ保証金ノ納入ヲ許サレタリトテ吾人ヲ非難セリ

ソハ全ク事実ナリ、而カモ右方法ハ日本政府ノ提議ニヨリ採用セラレタルモノニシテ之ニ關シ三月十四日總領事ト外

交部長トノ間ニ特別協定調印セラレタリ

終リニ日本政府ノ前掲一切ノ彈劾ハ總テ「交渉ニ於テ露国

政府ノ甚シキ不誠意ヲ見ルコトヲ得ヘシ」トノ文句ニテ結

ヘリ

約言ト雖自己ニ取り拘束的ノモノト認メ未タ嘗テ自己弁明ノ為虛構ノ事項ヲ考出スルコトナク常ニ行政的地位ノ高貴ナルコトカ其ノ地位ト相容レサル挙作ヲ抑制セシムトノ確信ヲ保持スルモノナリ

第一〇九号
一三四 五月二十五日 内田外務大臣ヨリ
在浦潮松村總領事宛 (電報)
漁業問題ニ關シメルクーロフ政権ヨリ協議再開方申出ニ付指示ノ件

露國政府ハ日本政府カ同一ノ漁業問題ニ關シ同時ニ浦潮斯徳ニ於テ沿黒竜政府ト大連ニ於テ知多代表者ト交渉セシコトヲ熟知スルモノナリ、尚「ソウエート」代表者トモ交渉ヲナシタルコト有リ得ヘキナリ、多分右行為ハ日本外務省ノ「誠意」ト認ムルモノナルヘシ、若シ然リトセハ吾人ハ惜ムラクハ人類ノ誠意ニ関スル日本ノ觀念ハ露國ノ政府者、行政官ノ觀念ト根本的ニ相異レリト言ハサルヘカラズ尚露國ノ政府者、行政官ハ書面ヲ以テスル協定ノミナラス

就テハ「メ」政権側ヨリ何等申出アラハ其内容至急電報アリタシ

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業関係雑件 一三五

一三五 五月二十五日 宮尾北海道長官ヨリ
床次内務大臣 内田外務大臣、岡警
視総監宛

力ムチャツカ漁業自由出漁ニ抗議ノ為交渉委

員派遣ノ件

高秘收第五〇六二号

(五月二十七日接受)

大正十一年五月二十五日

北海道長官 宮尾 舜治(印)

内務大臣 床次 竹二郎殿

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

警視総監 岡 喜七郎殿

勘察加漁業自由出漁ニ対スル露国政府ノ抗議ニ

関スル件

函館区谷地頭町二十四番地居住

デンビー商会主露国人

アルフレッド、ガオルギーウィチ、デンビー

西暦千八百八十年一月二十五日生
本月十九日浦潮斯徳露國商業會議所ニ於テハ露國漁業家並
貿易商會合シ勘察加州漁場ニ対スル日本政府ノ自由出漁ヲ
非難シ之ヲ不当ナリトシテ日本政府ニ抗議ヲ為スヘク決議

一六一

シ交渉委員トシテ浦潮商業會議所主幹「ブライナー」及前
記「デンビー」ヲ挙ヶ露國政府ノ承諾ヲ求メタルニ政府ハ

直ニ二名ヲ交渉委員ト為シ日本政府ニ抗議ヲ為サシムルコ

トニ決定シタル趣ニテ既ニ「ブライナー」ハ東京ニ於テ日本政府ト交渉ヲ為スノ期日ヲ定ムヘク奔走中ノ趣ニテ右

「デンビー」ハ本日午前七時三十分出帆連絡船ニテ上京セ

リ「デンビー」ヲ交渉委員ニ推舉シタル理由ハ第一同人ハ日本ニ生レタル關係上能ク日本語ヲ解シ我國民性ヲ了解シ居ルコト第二ハ日露人間ニ介在シテ漁業又ハ貿易ニ從事シ一般露人ニ比シ勘察加關係最モ厚ク露國漁業家トシテ第一流ニアルヲ以テナリ

元來同人ハ日英人間ノ混血兒ナルモ事業ノ關係上露國ニ国籍ヲ置キ性頗ル温厚ナリ同人ノ意図ヲ觀ルニ日露兩國ハ事業其ノ他ニ密接ナル關係ヲ有シ現在及将来ニ於テ互ニ相反目スルカ如キハ單ニ漁業問題ノミナラス各種事業ノ發展ヲ阻害スルコト甚大ナレハ此際露國人ノ誠意ヲ披瀝シ日本政府ノ了解ヲ得ル様極力妥協ニ努メ日露ノ親善ヲ計リ度シ云云ト口外セリ

右及申(通)報候也

艦船派遣ニ付通報ノ件

一三六 六月三日

前田露領水產組合組長ヨリ
古谷通商局長心得宛

組合事業船鵬丸ヲ露領沿岸へ廻航認可方請願

ノ件

発第一〇八〇号

(六月五日接受)

大正十一年六月三日

露領水產組合組長子爵 前田 利定(印)

外務省通商局長心得 古谷 重綱殿

記

本年露領出漁ニ關シテハ閣議御決定ノ御趣旨ニ基キ御認可相受候大正十一年露領出漁手続ニ準拠シ手続完了ノ組合員ニ對シ出漁証明書ヲ交付ノ上漁業ヲ經營セシムル事ト相成

候ニ付テハ組合員中右手統違反其他閣議御決定ノ趣旨ニ戾ル等ノ行為ナキ様相當御監視ノ儀トハ存候ヘ共尙未當組合ニ於テモ現場ノ取締ヲ致度被存候ニ付テハ當組合事業船鵬丸ヲ右目的ノ為メ主トシテ堪察加西海岸及オホツク沿岸ヘ廻航セシメ度候間右御認許被成下度此段請願仕候也

丸ヲ右目的ノ為メ主トシテ堪察加西海岸及オホツク沿岸ヘ廻航セシメ度候間右御認許被成下度此段請願仕候也

一三七 六月七日

井出海軍次官ヨリ

カムチャツカ力方面警備艦三補給ノ為海軍運送

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業関係雑件

一三六 一三七

一三八

六月十七日

在浦潮松村總領事ヨリ

内田外務大臣宛

一六三

本邦漁業者ノ自由出漁ヲ非難セル沿海州商工

業會議所ノ決議訳文送付ノ件

公第一四二号 (六月二十六日接受)

大正十一年六月十七日

在浦潮斯德

総領事 松村 貞雄 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

本件ニ關シ本日ノ「ルスキ、クライ」新聞ニ掲載有之候ニ付別紙ノ通り訳出為御参考茲ニ及送付候 敬具

(別紙)

漁業協約ノ侵犯ニ対シ (六月十七日「ルスキ、クライ」新聞所載) 訳文

沿海州商工業會議所ハ「ベ、ユブリーネル」ノ報告ヲ聴取シ左ノ通り決議セリ

一、沿海州商工業會議所ハ日本帝国政府ノ外務省ノ本會議所代表者「ベ、ユブリーネル」及「ア、ゲデムビー」ニ

為シタル答弁ヲ知悉シタル後先ツ本會議所ノ有スル公ノ

資料ニ基キ本年四月四日堪察加水面ノ漁区競売ヲ指定シ及之ヲ執行スルニ際シ臨時沿黒竜政府ノ一切ノ行為ハ千

九百七年協約ニ定メタル規則及在浦潮斯德日本總領事ト臨時沿黒竜政府トノ間ニ於ケル交渉ニヨル協定ニ嚴密遵守シタルモノナリト認ム、依テ沿海州商工業會議所ハ本年四月四日露国人ノ競落シタル漁区ニ於ケル日本漁業者ノ自由出漁ヨリ被リタル一切ノ損害ニ対シ責任ヲ負フモノハ臨時沿黒竜政府ニアラスシテ日本漁業者及日本帝国政府ノミナリト認ムルコトヲ得
二、露国人ニ属スル漁区ニ於ケル日本漁業者ノ漁撈權ヲ許可シタル日本帝国政府ノ決定ニヨリ傷ケラレタル露国民的利益擁護ノ目的ヲ以テ全沿岸漁場ノ現場ニ於ケル実際的擁護ノ為措置ヲ執リ及此場合ニ於テ千九百七年漁業協約ニテ許サル監視官吏ノ最断乎タル行動ヲ辞セサラムコトヲ臨時沿黒竜政府ニ請願スルコト

三、本問題ニ關シ臨時沿黒竜政府ニ報告シ露國漁場擁護問題ニ關シ同政府ト交渉ヲ為スコトヲ「ベ、ユブリーネル」及「エフ、ベ、シャボショコ」ニ委任スルコト

一三九 六月二十一日 在浦潮松村總領事ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

本年度露領沿岸漁業問題ニ關シメルクーロフ

政權ヨリ交渉再開方申出ノ件

第一五四号 (六月二十一日接受)

貴電第一〇九号ニ關シ

六月二十一日外交部長代理ヨリ左記訳文ノ口上書ノ交附ヲ受ケタリ

口上書

是迄ノ交渉ニ基キ外交部附外交部長ハ沿黒竜政府ノ意見ニ依レハ本年四月四日浦潮斯德ニ於ケル競売ニ日本漁業者ノ不参加ニ關連シテ釀成セラレタル状態タル日本帝国政府及沿黒竜政府ノ何レニモ均シク面白カラサルモノニシテ甚ダ望マシカラサル紛争及困難ヲ生ズルノ虞アルモノナルガ左ノ方法ニ依リ是ヲ解決シ得ヘキ旨声明スルノ光榮ヲ有ス

一、何人タリトモ露國漁業者競売ニ於テ合法的ニ取得シタル漁区ニ対スル権利ヲ奪取スルコトヲ得サルニ依

リ日本漁業者ハ何等カノ根底ニ依リ漁業經營ノ為メ露

国人ノ競落シタル漁区ヲ得ント欲スル場合ニハ當該漁

区所有者ト交渉ヲナスコトヲ得但沿黒竜政府ハ法理ノ範囲内ニ於テ一定ノ根拠ニ依リ日本漁業者ニ該漁区譲

与方ニ付アラユル援助ヲ供与スヘシ

二、競落セサリシ一切ノ漁区ハ日本漁業者ニ於テ貸下ケ

(欄外註記)

「一九二〇年(大正九年)度借区料延滞ノ理由

從來下半季借区料ハ翌一九二一年四月競売ノ際支払ノ事ナリ

シ處大正十年ハ自治出漁ナリシ為支払セザリシナリ

サレド彼政府ニ保証金トシテ右ト同額ノ金額供託シアリ故ニ當業者ハ之ニテ cover セントセリ」

一四〇 六月二十一日 在函館竹村広吉ヨリ
古谷通商局長心得宛 (電報)

ソスノワ蟹漁区附近ニバルチザン出没ニ付保

護請願ノ件

(六月二十一日接受)

沿海州十二号「ソスノワ」蟹漁区附近ニ昨今「バルチザン」出没シ危険ヲ感シ漁獵中止ヲ余儀ナクセラル虞アリ

急速海軍ノ保護ヲ請願ス

バルチザンノ危険防止ノ為警備艦派遣方請願

ノ件

函館区大町十四番地

合資会社高田商会函館出張所漁業部

竹村 広吉 (印)

外務省通商局長殿

謹啓

一、沿海州漁場バルチザン出没ニ関スル件

(六月二十四日接受)

六月二十二日附漁場出張員佐藤源輔ヨリ函館出張所竹村広吉宛報告書

バルチザン來襲顛末報告

大正十一年六月十一日未明濃霧ノ中ニ一艘ノ小蒸氣船スイトラヤ河口ニ仮泊シオルガ政府ノ民軍ノ長官ト称スル者約三十名ノバルチザン一派ヲ率イテ来襲ス数日前南方六十浬ノ附近ニ彼等ノ一部横行セルヲ聞キシガ何処ヨリカ新潟小池某ノ所有小蒸氣船ニテ海上ヨリ出現シ先づ各自異様ノ服装ニ武器ヲ携帶シ幹部員四名ニ兵二名合計六名上陸シ当事務所ニ来ル時ニ午前五時半漁業許可証ノ有無ヲ問ヒ吾ハ日露間交渉未ニテ仮ニ出漁セル旨ヲ伝フ參謀ト称スル者ハ雄弁ニオルガ政府ハ全沿海州ヲ統治スル權能ヲモチ浦塙政府トハ何等関連ナキモノナルガ故ニ昨年ト同額ノ漁業税ヲ早速オルガ政府ニ納入ス可キヲ揚言ス

税関吏ハ陸上シタル物資ニ對シオルガ政府ノ法律ニ照シテ税金(輸入税)ヲ課スル旨ヲ強要シタリ、然モ味噌、醤油、箱板類ヲ除ク凡テノ物品ニ法外ノ率例ヘ石油一箱ニツキ四円ノ課税スル等言語ニ絶ヘタリ、總額二千五百円ノ輸入税ヲ速刻納金ス可キ令状ヲ発シタリ、兵二名ハ側ニアリテ頻リニ実弾ヲ軍銃ヨリ挿脱スル事數回以テ武威ヲ示ス態度ヲナス、而シテ支払未済ノ間ハ製品罐詰ハ全部差押ヘテ倉庫ヨリ一寸モ移動スルヲ許サヌ旨言明セリ

此時小蒸氣船ヨリ武装シタル兵相ツギテ上陸シ棧橋ヨリ事務所ニ至ル間ヲ右往左往シ或ハ工場内ニ入りテ製造作業ヲ障クルガ如キ示威運動ヲナス、吾々ハ此徵發行為ニ応スルノ愚ハセザレトモ通信機関トテナク軍隊ノ援助ヲ乞フ能ハズ一拳ニ追返スダケノ手段方法ナキ為メ漁業税ハ中積船ノ着場ト共ニ日露間ノ交渉モ判明スル事ナレバ其節ニ解決スル事トシ輸入税ト称スル金額ハ九月拾日ヲ期限トシ内金トシテ壱百円ヲ与ヘ一時ヲ逃レタリ、当日サスノワ部落民ハ各一戸ヨリ百円ヲ課税セラレ且ツ漁業用鹽(ボーチカ入)ヲ封シ鮮人等ニ対シテ一人七円ノ人頭税ヲ課シ舟壱隻ニ対シ壱百円ノ舟稅ヲ徵ス真面目ニ正業ニ就ク彼等ハ遂惡思想

ニ陥リ雷同スルハ理ノ当然ト謂フベキナリ、中積船ノ着場(七月初旬)マデ参名(税関長、民警長兵、老名)ヲ残シ更ニ補充雜貨ニ對シテ課税シハ罐詰ノ船積輸出ヲ禁スル為メニ監視セシメ一行ハ午後三時小蒸氣船ニテ本部(テチューム)ニ向ヘリ

斯ノ如ク同胞ナル露人ヲ威圧シ鮮人ヲ教唆シ邦人ニモ迫害シ事業ノ支障ヲ來スガ如キ亡國ノ常末世ハ実ニ慘タルモノニテ枕ヲ高クシテ眠ル能ハザル状態ナリ

尚サスノワノ南方七十浬キニマヨリナイン方面ニハ所謂不逞鮮人ノ徒党勢ハゲシク更ニ殘虐性ヲ帶ビ露人ノ物資ヲ奪ヒ邦人ハ直チニ虐殺スト揚言ス各部落ニテハ鮮人ヲ集メテ朝鮮ノ独立復興ヲ叫ビ徵募兵タル事ヲ強要シ若シ諾セサルニ於テハ軍資金ヲ徵發ス總人口約八十名ノナイナ部落鮮人ニ對シテ千七百円ヲ奪取シタリ、キユマニテ彼等不逞鮮人ノ徒輩約二十名狼藉ヲナシオル時五月四日浦潮派遣軍艦日進回航ノ途其報ニ接シ同地先ニ仮泊シ陸戰隊ヲ組織シ彼ヲ追撃シタルモ艦影ヲ見テ直チニ山奥深ク逃れ入り遂目的ヲ果ス事能ハサリシ由ナリ、彼等ハ常に出没自在ニシテ一度強敵ト遭遇セバ直チニ逃レ又通過ヲ望ミテ再び現出スル

昨日不取敢別紙写ノ通り架電申上候処茲ニ漁場出張員ノ報告書並ニ請願書別紙ノ通り提出申上候条政務御多端ノ折柄誠ニ乍恐縮適當ノ保護方御高配ノ程奉懇願候也 拝具
註 別紙写前掲ニ付省略

(別紙一)

ガ如キ真ニ度シ難キモノナリ

最モ遺憾ニ思フハ我国ノ木材業者ガ浦潮ニ税ヲ納付スルノ繁ヲ避ケ現場ニテ彼等バルチザンニ税ヲ支払ヒテ恣ニ木材ヲ伐採シオル為メ多額ノ軍資金ヲ貯ヒシメ将来益々盛ンナラシムルノ傾向アリ其伐採区域ノ大小ニヨリテ差アレトモ一ヶ所六千円乃至七千円位ノ税ヲ納付ストキク右報告候也

沿海州蟹漁区第拾弐サスノワ

合資会社高田商会漁場

大正十一年六月二十二日

佐藤 源輔（印）

（別紙二）

六月二十二日附竹村広吉ヨリ古谷通商局長心得宛請願書

請願書

本年度抽者經營中ノ沿海州西南区第十二号「ソスノワヤ」蟹漁区ニ於テ去ル六月十一日「オリガ」政府役人ト自称スルモノ約參拾名武装ヲナシ一隻ノ小蒸汽船ニ乗シ著場漁場

料及漁業用品ニ対シ過大ノ輸入税ヲ課シ此金額金弐千五百円也ヲ即時現金納付セサルニ於テハ漁業ヲ中止シ且ツ収獲

物全部ヲ押収スルト強要シ此要求ニ応セサルニ於テハ危害ヲ加ヘントスル形勢ヲ示セル為メ漁場員ハ抗争スルノ不利ナルヲ認メ種々申訳ヲナシ不得已前記要求金額ハ九月十日ヲ期シテ完納スペキコトノ念書ヲ交付シ内金トシテ現金壹百円也ヲ徵取セラレ一時虎口ヲ遁レタル次第二御座候

前記「バルチザン」一派ハ「ペルチザン」一派名ヲ監視者トシテ漁場ニ残シ再来スペキヲ告ケ立去リタリ猶此外同地方ニ散在スル不逞朝鮮人等ハ「バルチザン」一味ノ者ニ加担シ各自武器ヲ所持シ日本人虐殺ヲ揚言シ為メニ附近各漁場共絶エズ危険ヲ感シ半途漁撈ヲ中止シ引掃ケラ余義ナクセラルルノ虞アリ

右ニ就キ何卒同方面御警備中ノ艦船ヲ至急前記「ソスノワヤ」漁場ニ御簡派相成向後ノ危険ヲ除去スルコトニ御高配ヲ得度此段奉懇願候也

右ニ就キ何卒同方面御警備中ノ艦船ヲ至急前記「ソスノワヤ」漁場ニ御簡派相成向後ノ危険ヲ除去スルコトニ御高配ヲ得度此段奉懇願候也

追申右ニ関シ先刻不取敢別紙写ノ通架電申上候

大正十一年六月二十二日

函館区大町十四番地
合資会社高田商会函館出張所

漁業部

外務省通商局長殿

竹村 広吉（印）

一四二 六月二十二日 在浦潮松村總領事ヨリ
内田外務大臣宛

本邦漁業者ノ自由出漁ニ対スル沿海州村落經

済会ノ抗議訳文送付ノ件

（七月一日接受）

公第一四八号

大正十一年六月二十二日

在浦潮斯德

総領事 松村 貞雄（印）

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

本件ニ關シ昨日当地諸新聞ニ掲載有之候ニ付別紙之通り訳出御参考迄及送付候 敬具

（別紙）

漁場ノ掠奪ニ対スル沿海州村落經濟会ノ抗議訳文

沿海州村落經濟会ハ同州ノ村落經濟ニ援助ヲ供与スルヲ以テ其ノ直接目的トナスニ依リ一切ノ天然富源ニシテ其存在及適當ナル利用カ當地方ノ經濟的繁榮ノ保障トナルヘキモノノ意義ヲ考量セサルベカラス

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業關係雑件 一四二

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業関係雑件 一四三 一四四

一七〇

メ本決議ヲ当地新聞ニ掲載シテ普ク一般住民ニ通告シ並在外村落經濟会代表者ニ配布シ以テ日本政府ノ露國利益侵害ノ事実ニ対シ露國ニ対シ友好的關係ヲ有シ且權利ノ觀念力

暴力ニヨラスシテ正義及條約關係ノ尊重ニヨリ定メラルル諸國ノ輿論ヲ喚起スルコトニ決セリ

註 別紙ヲ省略ス該別紙ハ六月二十一日在浦潮松村總領事発内
田外務大臣宛電報第一五四号ノバラフレーズナリ

一四四 六月二十四日 村上農商務省水產局長、古谷外務省
前田露領水產組合組長宛

通監普通第九五九号

大正十年度借区料中未納分納入方延期ニ關スル件

本件ニ關シ五月二十四日付發第八一八号及六月三日付發第

一〇八三号追申ヲ以テ御申請ノ趣了承然ルニ昨十年度自治

出漁ニ依ル借区料ノ納期ニ關シテハ當業者ノ懇請ニ基キ同

年五月及十一月ノ兩期ニ分ツコトトセルモノニシテ右ニ對

シテハ當業者ニ於テ十一月迄ニハ漁業終了ニ至ルヘキヲ以

テ魚貨ノ売揚金收得ヲ俟テ借区料ノ納付ヲ完了ス可シトノ

誓約ヲ為シ居レル次第モ有之且今回御請願ノ如ク最終納付

期ヲ大正十三年十一月末日トナスニ於テハ其間漁業者中ニ

モ幾多ノ変動盛衰アルヲ免レサル可ク從テ整理上不都合ヲ

生スル虞不妙ト被存候ノミナラス露國政情ノ推移ニ依リテ

ハ露國側ト交渉上ノ必要モ生ズルコトアル可キニ付本件滞

納金ハ本年十二月末日迄ニ是非共之ヲ完納セシメラル様

致度尤モ客年度金留建借区料ニ關シテハ本年度ノ例ニ倣ヒ

総領事ヨリ別紙^(註)ノ通り電報越候間不取敢右写及御送付候也

総領事ヨリ別紙ノ通り電報越候間不取敢右写及御送付候也

将来追徵スルコトアルベキモ仮リニ其二割五分通減方容認スルコト可致尤滯納額ニ対シテハ其規定納付期日ノ翌日即チ大正十年十二月一日ヨリ實際納付シタル日迄ノ期間ニ付露國ノ規程ニ準拠シ月千分ノ五ノ遲延利子ヲ賦課徵収スルコトニ御取計相成度此段回答申進候也

追テ六月三日付發第一〇八三号追申ニ關スル紙幣留ノ未

納額ニ対シテハ可成速ニ納入方御取計相成度此義申添候

一四五 六月二十七日 高橋露領水產組合組長代理ヨリ

高谷通商局長心得宛

露領沿岸漁業問題ニ關シ日露両國關係者会談

発第一五〇五号 大正十一年六月二十七日 (六月二十八日接受)

臨時沿黒竜州政府宛

一九二二年六月二十二日

極東露國領海ニ於ケル漁業問題改善ノタメ意見交換ノ希望ヲ以テ六月十六日及二十一日予ハ日本漁業者団体ノ主ナル代表者ト再度ノ会見ヲナセリ

同会見ノ参加者次ノ如シ

評議員 高橋 助七 (印) 日魯漁業株式会社社長 堤氏

外務省通商局長心得 古谷 重綱殿 本月十六日及二十一日当組合評議員佐々木平次郎、堤清六及副組長秋元義親、在横浜露國臨時沿黒竜江政府日本代表者グリゴリエフ氏ト露領漁業問題ニ關シ會見致候處同氏ハ

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業關係雑件 一四五

一七一

会見ノ概要左ノ如シ

今日マデ日露漁業者間ニ何等聯絡ノ無カリンハ最モ遺憾ナ

リ、而シテ漁区ハ競売ニ依リ貸下ゲラレ、関係者間ニ競争可能ナルガタメニ借区料ハ絶エズ騰貴スルノ状態ニアリ、即チ漁場ニ投資セル經營費ヲ失ハザランガタメ、并ニ漁区ヲ継続租借希望スルニ依リ競売ニ於ケル借区料ハ漸々騰貴スルヲ免カレスナリ、カカルガ故ニコノ過剩ナル出費ニ補填センガ為メニハ濫獲ニ依ル多額ノ漁獲物ヲ以テスルノ止ムヲ得ザルニ至レリ

然ルニ市場ニ於ケル漁獲物ノ増加ハ必然的ニソノ価格ヲ低下セシメ延イテ漁業者ノ損失ヲ来セリ
元來日本漁業者ノ多数ハ借区料納入ヲ回避スルモノニ非ザルモ極東露西亞ニ於ケル数次ノ政治的変革ノタメ例ヘバ一九二〇年度ノ借区料ノ如キソノ一部ハ浦潮支金庫ニ、一部ハ函館露西亞領事館ニ他ノ一部ハ未タ滯納ノ状態ニアルナリ、而シテ現ニ金留諸換算率ニ伴フ借区料未納額ハ目下調査ニ着手中ナリ

漁業者ハ大連會議ニ漁業問題解決ノ希望ヲ嘱シタリシガ極東共和国代表者ハ同會議ヲ經濟的ヨリ政治的ニ利用センコトヲ希望セル不誠意ヲ知ルニ至レリ
日本漁業者ハ漁業問題ヲ主トシテ經濟上ニ基礎ヲ置カシコ

ノトス

日本政府及臨時沿黒竜江政府ヨリ同組合ニ各一名ノ委員ヲ同上政府トノ聯絡ノタメニ任命ス

同組合組織ノタメニハ先づ成ルベク速カニ日本及臨時沿黒竜江政府ノ根本的同意ヲ得ルノ必要アリ

秋期漁業者ガ漁場ヨリ帰来スルヲ待チテ會議ヲ開催シ同會議ニ於テ日露漁業者組合ヲ組織シ其他ノ同組合諸規定及細則ノ制定ハ同組合選定ノ委員会ニ於テ作製スルモノトス

一四六 六月二十七日 在浦潮松村總領事ヨリ
本邦人ノ自由出漁ニ關スル「ナーシャ、レー」
チ」紙掲載ノ論評訳文送付ノ件

公第一五二号

(七月一日接受)

在浦潮斯德

總領事 松村 貞雄 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

本邦人自由出漁ニ關スル新聞論評送付ノ件

本件ニ關シ昨日ノ「ナーシャ、レー」新聞ニ「ペ、コマ

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業關係雑件 一四五

トヲ切望スルモノナリ

露國ノ復興セザル間、日本ガソノ資本ヲ以テ西比利亞ノ富源開發ニ參加スルハ自然ノ勢ニシテ今直ニ入り得ベキ富源ハ即チ極東漁業ノ開發ニ外ナラザルナリ、而シテコノ富源ハ日露兩國民ノ同ジク利害關係ヲ有スルモノナリ斯ク利害關係ヲ同ジクスルニモ闕ハラズ今日マデ両者ノ間ニハ全ク何等ノ聯絡協同スルモノヲ見ズ

現在日本ニハ政府ノ認可セル露領水產組合ナルモノヲ組織シ是ガ組長ハ前田子爵ニシテ總テノ漁業者ハ法人ノ形式ナルコノ組合ニ必ズ加入スペキ義務アルモノナリ

漁業問題ノ改善及将来ニ於ケル各種ノ衝突除去ノタメ日露兩國ノ有力ナル漁業者(投機者ニ非ラザル)ヲ以テ日露漁業組合ヲ設立スルコト最モ必要且ツ有効トス

本組合ハ其ノ組合中ニ統治及ビ責任機関即チ組合委員会ヲ選定シ正當ナル漁業經營ノ監督ハ同機関ノ責任トス

同委員会ハ不正漁業者ノ漁業經營權ヲ剥奪スルノ權能ヲ有スルモノトス

斯クシテ同委員会ハ富源タル魚類ノ絶滅ヲ防グ為メ孵化場ヲ選定シ尚ホ最モ妥当ナル各漁場借区料ノ算定等ヲナスモ

迄及送付候
(別紙)
我漁業ニ對スル脅威(六月二十六日「ナーシャ、レー」新聞所載)訳文

我讀者ノ熟知セルトコロナル商工業會議所及村落經濟会ノ抗議ハ當地方富源ノ要素ノ一ナル露國漁業ニ對スル日本漁業者ノ關係ヲ充分表明スルモノナリ
該抗議ニハ日本人ノ政策ハ國際法ノ根本義ヲ蹂躪スルモノナリ何トナレハ戰爭ノ權利ニ依リ占領セラレタル地方ニ於テスラ私有財產權ハ尊重セラルモノニシテ日本ハ極東ニ於ケル露國ノ主權ノ承認ヲ宣言シタルコト一再ニアラサレハナリト指摘シ居レリ

茲ニ其ノ真相如何之レ单ニ我国ノ劣弱ヲ利用セルモノナリヤ將タ其処ニ何等カノ特殊ノ理由アルヤノ疑問自ラ生ス少クトモ極東ニ於テハ現時ノ露國ノ政治的無援ナルコトカ其ノ根本ナルヤ言ヲ待タス、サレト漁業界ノ事情ニ通シ最近日本ヨリ帰来セル者ノ本文起草者ニ伝ヘタルトコロニヨレハ本問題ニ關シ實際ニ於テハ或ル偶然的事情カ役割ヲ演

シタルナリトノコトナリ

日本人ノ公ケノ地位ハ左ノ如シ

日本ハ漁区競売ノ延期ヲ請求シタルモ浦潮政府ハ之ヲ容レ
サリシヲ以テ日本ハ四月四日ノ競売ヲ合法的ト認メシテ
兵力援護ノ下ニ露國水面ニ於ケル漁業権ヲ自國民ニ賦与シ
居リ四月四日漁区ヲ競落シタル露國人ノ被ルコトアルヘキ
損害ニ対スル一切ノ責任ハ日本ノ見地ヨリスレハ沿黒龍政
府ノ負担ニ係リ露國漁業者ハ同政府ニ対シ損害ノ要求ヲ為
スヘキナリ

實際ノ事情ハ左ノ如シ

國庫ノ補助ヲ受ケ居ルモ其ノ事業甚^タ思ハシカラサル在東
京水產組合ハ自己ノ資^シヲ利用シ日本漁業者ガ競賣ニ於テ
相當料金ヲ納付スルコトナク後日漁区ヲ掠奪センカ為浦潮
斯徳ニ於ケル四月四日ノ競賣ニ出席セサランコトヲ要請ス
ルニ至レリ尚沿黒龍政府ハ日本ノ希望ヲ迎ヘ漁区ノ評価ヲ
甚シク低減セシコトヲ念頭ニ置カサルヘカラス、サレト多
分日本漁業者ハ斯ル僅少ナル金額スラ支払フコトヲ欲セサ
リシカ又ハ其ノ資力ニ副ハサリシナラン

斯ノ如ク日本政府ハ實際ハ前記水產組合ノ影響ヲ受ケ四月

忘却スヘカラサルナリ

若シ現時吾人ハ何等カ新シキモノヲ創成スルコト能ハスト
セハ現存セルモノヲ保存スルカ為全力ヲ傾注セサルヘカラス

一四七 六月三十日

酒井露領水產組合組長ヨリ
古谷通商局長心得宛

露領沿海州ニ於ケル漁業者保護ニ關シ請願ノ件

発第一五二六号

(七月一日接受)

大正十一年六月二十七日

露領水產組合組長代理

評議員 高橋 助七

海軍省軍務局長 大角 岳生殿

露領沿海州ニ於ケル漁業者保護方ニ關スル請願ノ件

本月二十六日附發第一、四八二号ヲ以テ御保護方請願仕候
通リ沿海州方面ニ於テハ在浦潮斯徳臨時沿黒龍江政府ノ政
令全ク行ハレスシテ「オリガ」ヲ根拠トスル過激派各般ノ
行政権ヲ掌握シ相当武力ヲ以チ來航者ヲ威圧致候由ニ有之
候處當組合員中該方面ニ漁区ヲ有スル者尠カラス現ニ右過
激派ノ為漁業権行使上迫害ヲ蒙リタルノ事実ハ大正十年六
月當組合員関矢儀八郎ノ經營スル漁区第六号「リヤフリ一
ンスキ」ニ於ケル漁獲物沒收事件並ニ今次竹村広吉ノ經
營スル蟹漁区第十二号「ソスノーフ」ニ於ケル日露漁業協
約ニ拠リ当然免除サルヘキ輸入税ノ納付ヲ強要シタル等ノ
事件有之候事態如斯ナルトキハ當業者ハ安シシテ漁業ニ從
事スルコトヲ得サルノミナラス将来再ヒ不祥事ノ發生保シ
難ク其都度不本意ニモ當該官憲ニ御煩累ヲ及ホス仕儀トナ
リ恐縮次第モ無之候右ノ如キ迫害ハ職トシテ「オリガ」

（別紙一）
(写)
本月二十七日附發第一五〇六号ヲ以テ別紙写ノ通リ海軍省
へ請願致置候処今回組合員竹村広吉ヨリ再応別紙電報写ノ
通り通知有之候ニ付テハ何分ノ御配慮相仰度此段請願候也

発第一五〇六号

四日競賣ノ「ボイコット」ナル既成ノ事實ニ逢著シタリシ
ナリ、之カ為メ日本官憲ハ何トカシテ血路ヲ發見スルノ已
ムナキニ至リシモノニシテ損害ニ対スル一切ノ責任ヲ沿黒
龍政府ニ負担セシムル彼ノ公ノ理由ハ胚胎セリ
然レト日本人ハ合法的見地ヨリシテ自己ノ地位ノ薄弱ナル
コトヲ明カニ感知シツツアリ、地方及外國新聞ニ廣ク發表
セラレ且列強ニ通告セラレタル沿海州商工業會議所ノ抗議
カ東京ニ於テ狼狽ヲ來サシメ日本漁業者ノ掠奪の傾向ヲ薄
弱ナラシメタルコトハ毫モ驚クニ足ラサルナリ、然ルニ商
工業會議所ハ之ニ止マラスシテ我太平洋ノ全沿岸ニ於ケル
露國漁場ノ保護ニ対シ断乎タル措置ヲ執ランコト沿黒龍政
府ニ請願セリ
吾人ハ若シ商工業會議所ノ声カ聽取セラレ政府カ幾多ノ内
政事務ノ為我漁業ノ保護ノ如キスル経済的大問題ヲ閑却ス
ルコトナク吾人ノ勸ムル措置ヲ執ランカ日本人ノ行為ノ不
合法ナルコト明白ナルニ依リ積極的効果ヲ期待スルコトヲ
得ヘシト信スルモノナリ
漁季ハ既ニ始リタレハ遲滯ナク漁場監視ヲ組織スルヲ要ス
我漁業ハ啻ニ漁業者ニ利益ヲ与フルノミナラス漁民ニ収入
ヲ与ヘ浦潮斯徳ニ低廉ナル食料ヲ供給スルモノナルコトヲ

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業関係雑件 一四八 一四九

一七六

在過激派政府ノ暴令ニ由ルモント思料セラレ候就テハ将来右ノ如キ不祥事ノ發生ヲ未然ニ防ク為ニハ彼等ノ策根地タル「オリガ」ヲ相當威圧スルニ如カスト存セラレ候此儀御賢察御詮議ノ上該地ニ帝国軍艦ヲ配置スル等可然威圧ノ方法ヲ講スル様御取計ヒ被成下度此段及請願候也

(別紙二)
(写)
六月二十九日竹村広吉発露領水産組合宛電報
本月二十四日西南区十二号(ソスノワ)蟹漁区ニ於テ露國監視船(レイテナント、デュイデュイモフ)ノ為ニ蟹罐詰二百二十函徵發サレタ

一四八 七月二十日 特務艦青島艦長ヨリ
加藤海軍大臣宛(電報)
力ムチャツカ岬漁区ニ閔スル日露間紛争調停ノ件
青島機密第六号

堪察加岬ニ於テ函館笠野栄吉ノ名義ヲ以テ本年度新ニ「ヤーンスキ」第六漁区ニ出漁シタル原田定吉ト此地駐在浦潮政府代表者並村民トノ間ニ漁区ニ閔シ紛争ヲ生シ居タリシヲ以テ其ノ位置ヲ出漁證明書ニ指定セル場所ニ近ク移転

ヲ命シ紛争ヲ調停シ置ケリ

一四九 七月二十二日 在浦潮松村給領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

沿海州ニ於ケル木材密輸出取締法案裁可並浦

潮政権ノ対日本人態度悪化ニ付報告ノ件

(七月二十三日接受)
第一八四号

今回当地新聞紙上浦潮政権部長會議ハ最近沿海州ニ於ケル森林盜伐ヲ防ク目的ヲ以テ刑法第一五九条並森林保護法第八八二条ノ改定増補方ヲ政府ニ提議シタルカ政府ハ法ニ基キ今後極東各州即チ沿海州堪察加薩哈哩州ニ於テ海上ヨリ恣ニ木材ヲ輸出セムトスルモノヲ發見シタル場合ニハ右木材ヲ沒收スルノミナラス汽船帆船ノ別ナク輸出ニ使用シタル輸送機関ヲも沒收スルニ決セリ云々ノ記事アリタルニ付七月二十二日館員ヲシテ露国當局ニ就キ実否ヲ確メシメタルニ木材密輸出取締法案カ政府ニ於テ裁可セラレタルハ事実ナルモ其内容ハ外交部經由公文ヲ以テ照会ナキ限り特ニ日本領事館ニハ知ラセ難シト撥ネツケ(從来ハ斯ル無愛想ノ態度ニ出デタルコトナシ)タル趣ニテ更ニ外交部ヲ經て内容實否問合中ナルモ最近當地政権ノ當館乃至一般日本人ト説キ同日ノ「ブーチ」ハ

「サヴエト」露國代表者ノ會議參加ノ件ハ承諾済ト看做スペキモ樺太ヨリハ撤兵セザルガ如シ右ハ日本ガ尼港事件ノ交渉ニ對スル牽制手段ナルベケレド若シ日本ガ真ニ露國トノ政治上経済上ノ諸問題ヲ円満解決スルノ誠意ヲ有スルナラバ此旧套手段ヲ止ムルヲ至当トス依テ右ノ撤兵ノ實行ナキ間吾人ハ今回ノ日本ノ回答ノミヲ以テ両国通商親善ノ開始ヲ期待スルハ尚早ナリト説キ同日ノ「ブーチ」ハ

来るベキ會議ニ於テハ吾人ハ政治上ニハ白衛軍ノ殘党ヲ片付クルヲ以テ主眼トシ經濟上ニ於テハ曩ニ大連會議ニ於テ極度ノ讓歩ヲナシタルニ依リ此上經濟上我独立ヲ侵シ我ヲ束縛スルガ如キ特權ヲ日本ニ与フルコトナカルベシト主張シ十六日ノ「ブーチ」ハ

日露交渉再開ニ閔スル最近齊多諸新聞論調左ノ通
十八日「テレグラフ」ハ
第三二一号
(七月二十四日接受)
在滿洲里田中ヨリ
第二二号
日露交渉再開ニ閔スル最近齊多諸新聞論調左ノ通
十八日「テレグラフ」ハ
今回日本政府ハ齊多側ノ提議ニ承諾ヲ与ヘタル由ナルガ
八 極東露領沿海ニ於ケル漁業関係雑件 一五〇

尚今次共和国内殊ニ滿洲ニ於ケル白軍ノ行動ニ対シ一層ノ
コトヲ説述セリ

一七七

注意ヲ喚起セリ

二十日ノ「テレグラフ」

日本ガ支那及露國ニ於テ経済上ノ霸權ヲ掌握スルヲ伝統政策トナストテ最近長春鉄道會議ノ例ヲ引キ日本ハ浦潮ノ位置ヲ弱ムルコトニ成功シタレバ來ルベキ會議ニ於テハ好ク此例ヲ忘ルベカラザランコトヲ力説セリ

一五一 八月一日 村上水産局長及永井通商局長ヨリ
酒井露領水産組合組長宛

露領出漁者取締ニ閑スル件

局第一八四五号

今般海軍省ヨリ回附ノ報告ニ依レハ貴組合員笛野栄吉名義「ヤンスキ」第六漁区ニ対スル出漁証明書ヲ有スル原田定吉ナル者堪察加岬ニ於テ出漁シ同地駐在浦潮政府代表者並村民トノ間ニ漁区ニ關シ紛争ヲ生シタル趣ノ所右ハ本年ノ出漁方針ニ照シ遺憾トスル所ニ有之候条至急事情取調べ上御回報相成度此段及照会候也

追テ本件出漁証明書記載以外ノ場所ニ出漁スルカ如キコトハ啻ニ本年ノ出漁方針ニ反スルノミナラス累ヲ将来ニ貽スモノニ有之候条右ノ如キ不当ナル行動ヲ為ササル様

発第五五二一号

大正十一年七月十八日

臨時沿黒竜江政府事務本部

駐日代表者

デデ、グリゴリエフ殿

政府首班ノ決裁ニ基キ本部ハ日露漁業組合ノ設立ニ対シ何等異議ナキコトヲ茲ニ通告候也

事務總裁

事務官

一五三 八月八日

酒井露領水産組合組長ヨリ
内田外務大臣宛

サガレン州内大陸方面ヨリノ撤兵後ニ於ケル

本邦漁業者及権益保護ニ付配慮方請願ノ件

発第一七五九号

大正十一年八月八日

露領水産組合組長 子爵 酒井 忠亮（印）

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

帝国政府ニ於テハ本年九月末日迄ニ薩哈哩州内大陸方面ヨリ

極東露領沿海ニ於ケル漁業関係雑件 一五三

此ノ際一層貴組合員ニ対シ注意ヲ喚起セラレ度申添候也

一五二 八月三日 酒井露領水産組合組長ヨリ
村上農商務省水産局長、永井外務省通商局長宛

露領沿岸漁業問題ニ閑スルグリゴリエフノ意見書ニ対シメルクーロフ政権ヨリ回答到着ノ

件

発第一七四八号 大正十一年八月三日
(八月四日接受)

露領水産組合組長（印）

水産局長殿 通商局長殿

日露漁業者ガ組合組織ニ閑スル沿黒竜江政府ノ回答ノ件

六月廿七日附ヲ以テ在本邦臨時沿黒竜江政府代表者「グリゴリエフ」氏ヨリ同政府へ上申セシ意見書訳文差進メ置候今般同政府ヨリ別紙訳文ノ通り同氏へ回答有之候趣通知有之候ニ付右為御参考差進候也

(別紙)
(訳文)

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業関係雑件 一五四 一五五

一八〇

於ケル漁区、製魚区ノ貸下並ニ其他一切ノ関係ヲ他ノ一
般方面ノ海上漁区ニ於ケルモノト同様露國人ト全然均等

ノ取扱ヲ受クル様御交渉相成度殊ニ同方面ニ於ケル外國

労働者使用ニ関スル制限ヲ撤廃セシメラレ度コト

(欄外註記)

「余リ虫ノ良過グル請願書ナリ此儘ニ受流シ置クハ後日ノ面

倒ヲ來ス處アリ可然指示ヲ要スベシ(埴原次官)」

一五四 九月七日 在浦潮松村總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日本人漁場保護ノ為ノ軍艦派遣布告ニ対シ露

国側ヨリ申越ノ件

第二六〇号 (九月七日接受)

九月七日客月二十五日附公文ヲ以テ当地政府執行官「ジド
リックス」ヨリ直接大要左ノ通申越セリ

予ハ露國官憲ヨリ「オホック」勘察加地方露國領海ニ於テ
日本人ノ占有ニカカル漁場保護ノ為日本軍艦派遣ニ関スル
日本帝国政府布告文ニ接シ目下ノ事態ニ鑑ミ且予ノ好マザ
ル軍事上ノ紛争ヲ避クルガ為露國軍艦ニ対シ夫々必要ノ訓
令ヲ發シタリ右日本国政府ニ報告スルノ必要アリト思考ス

第六四号

(九月十四日接受)

貴電第三四号ニ閲シ

先ツ当地最近ノ政情ヲ述ベシ八月十六日露船「シイシャ
ン」号ニテ「イリイン」海軍大佐ハ約八十名ノ水兵ヲ率ヰ
テ到着シ當地衛戍司令官トナルヤ嚴命ヲ發シテ軍規ノ緊肅
ニ努メタレバ爾來兵員ノ狂暴終熄シ又二十一日以來附近過
激派ノ討伐ヲ行ヒテ之ヲ駆逐シタレバ當市ハ小康ヲ呈シ市
民ハ自由ニ市外ニ出デ生業ニ從事スルヲ得テ漸ク蘇生ノ感
アリ然ルニ早クモ數日前ヨリ軍人中暴行又ハ強盜ヲ為ス者
アリ又軍隊側ノ食料不足シ今後二三週間以上ヲ支フルニ足
ラズト伝ヘラレ併モ同大佐ハ近々一個中隊ノ來着ヲ公言シ
居ル處浦潮政府ノ現状ニ照シ今後十分ノ食料資金ヲ輸送シ
来ルヤ疑ナキヲ得ズ果シテ然ランニハ如何ニ嚴重ナル命令
ヲ以テ軍隊ヲ取締ルトモ革命以來放浪生活ヲ送リ道徳的觀
念麻痺シ過激派投降乃至自存ノ為ニハ沒収掠奪ヲ常飯事ノ

如ク考ヘ居ル軍隊ニ対シテハ何等実効ナカルベク再ビ同大
佐着任前ノ状態ニ復シ軍隊横暴ノ為無警察ノ状ヲ呈スベキ
ハ明白ナリ尙ホ官辺側ノ情報ニ據レバ更ニ浦潮ヨリ多數軍
隊來着スルモノノ如シ右多數軍隊ノ來着説ニ付テハ直ニ信
ヲ措キ難キモ我西比利亞派遣軍撤退及日齊協商ノ為浦潮政
府ノ生命旦夕ニ迫レルモノトセバ同政府者カ逃竄ノ際又ハ
其ノ準備ノ為當地ニ多數軍隊ノ來ルコトアルベキヲ考ヘザ
ルベカラズ併モ其ノ際軍隊給養ハ益不足ヲ訴フヘキハ自明
ニシテ為ニ軍隊カ暴威ヲ振フヘキ程度ハ兵員ノ多數ナル丈
ケ一層甚シキモノアルヘク又其ノ範囲ハ遠ク村落及沿岸漁
場ニ迄及ビ本邦漁業者モ損害ヲ蒙ルベキヲ思ハザルヲ得ズ
他面ニ於テ代官「ビリチ」ハ政府へ報告ノ為召喚セラレタ
リトテ九月二日浦潮ニ向ケ出発シ其後ハ其ノ代理者ノ任
命ナク官位低ク経歴乏シキ官房長郡長トナリテ中央及地方
行政ニ当リ居ル多數官吏ハ其ノ節度ニ服スルヲ欲セス爾
來行政上ノ中心人物ナク行政ヲ掌ケテ實勢力ヲ擁スル軍隊
ニ之ヲ委シアルノ実情ナリ之ヲ要スルニ当地ノ政情ハ過激
派ノ脅威ハ當分之ヲ予期セサルモ軍隊新着及其ノ給養不足
ノ為事態益悪化シ昨秋ニ比シ一層憂慮スヘキモノアリ以上

ノ觀測ニ就テハ當地内外人トモ一致スル所ナリ從テ我在留
民ハ軍艦ノ冬營ヲ望ムコト切ナルモノアリ
次ニ其ノ冬營時期場所如何ヲ想像スルニ從來軍隊カ狂暴ヲ
恣ニシ当市カ無警察ノ状態ニアリテ露人支那人等カ屢々財
産及身命上ノ危害ヲ加ヘラレタル際一邦人及ヒ二三鮮人カ
軍人ノ為暴行ヲ加ヘラレ後者ハ(不明)ヲ免レ得タル外比
較的安全ナリシハ軍人カ在泊ノ帝国艦船ニ憚リタルモノト
看取セラル然ルニ最近軍人中往々我カ對露策ニ慷慨ラス本邦
ニ対シ反感ヲ有スルモノモアル程ナレハ今後秩序紊乱シタ
ル際軍艦冬營ナキニ於テハ邦人ニ対スル從來ノ態度ヲ改メ
他ノ住民ニ対スルト同様若クハ夫レ以上ニ暴威ヲ振ヒ暴行
ヲ加フコトアルヘキヲ思ハサルヲ得ス即(不明)押収(不明)
掠奪ニ依ル財產上ノ損害ハ言フヲ俟タス人命上ノ危險モ亦
之ナキヲ保セス、殊ニ日齊協商成立ノ上ハ當地官憲モ亦必
然本邦ニ対シ反感ヲ有スヘキヲ以テ當方ヨリ軍隊取締ヲ要
望スルモ之ニ対シ先方カ充分ナル考慮ヲ加ヘサルヘキヲ期
セサルヲ得ス、故ニ在留民ハ軍艦冬營ナキニ決定シタル場
合ハ以上ノ危險ヲ予想シ旁々商業及一般生産不振ノ殆ント
何等収益ナキニ顧ミ其ノ多數ハ當地ヲ引揚ケント決心シ居

一五五 九月十三日 在ベトロパウロフスク島田領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

当地政情不安ニ鑑ミ軍艦ノペトロ港冬營方稟

請ノ件

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業関係雑件 一五六 一五七

レリ、之ニ依リテ之ヲ見レバ在留民ノ身命財産及沿岸漁場財産ノ安全ノ為ニハ軍艦ノ冬營ハ望マサルヲ得ス、尤其ノ冬營ヲ以テスルモ多数軍隊カ暴威ヲ逞フスルトキハ沿岸ニ散在スル漁場ノ完全ナル保護ハ期シ能ハサル可シ、而シテ冬營ナキコトニ御決定ノ上ハ引揚希望者ヲシテ十一月下旬リト思考ス、尚最近政情ニ就テハ九月六日附機密送第六号拙信御参照ヲ請フ

一五六 十月二十三日 村上農務省水産局長ヨリ
永井外務省通商局長宛

露領水産組合員ニ対スル露國側ノ不當徵税措

置ニ關シ抗議方要請ノ件

局第二四四三号

(十月二十四日接受)

大正十一年十月二十三日

農務省水産局長(印)

通商局長殿

今般露領水產組合ヨリノ通報ニ依レハ同組合員閔矢儀八郎ハ同人借区期間中ノ漁区西南区第六号ニ出漁セシ處八月二十六日「チュティハ」民兵長ハ同漁場ニ臨検シ網稅漁船稅

局第二五三七号 大正十一年十一月六日 明年度ノ露領沿海出漁方針ニ付照会ノ件

(十一月七日接受)

局第二五三七号 大正十一年十一月六日 農務省水産局長(印)

通商局長殿

大正十一年邦人露領出漁ハ既定ノ方針ニ基キテ行ハレ最近其ノ段落ヲ告ケタル處明年度ノ出漁ニ關シテハ關係當業者ノ事業計画上ノ必要モ有之可成早ク之ガ方針ノ決定ヲ要シ殊ニ最近ニ於ケル浦潮政變ノ結果日露兩國ノ漁業的關係ガ若シ旧態ニ復スルカ如キ場合ハ漁区ノ開設出願等差當リ準備ヲ要スル事情モ有之候付テハ當業者指導上ノ参考ニ供シ度候間右ニ対スル貴見承知致度此段及照会候也

一五八 十一月十一日 永井外務省通商局長ヨリ
村上農務省水産局長宛

露領沿海州漁業ニ対スル浦潮新政権ノ方針二
閔スル件

通商普通第二〇一二三号

一五九 十一月二十五日 村上農務省水産局長、永井外務省通商局長ヨリ
酒井露領水產組合組長宛
明年度漁区開設願書ノ作成ニ當リ自治出漁期
間ノ取扱指示ノ件

通監普通第一五四一号

漁区開設希望願書ニ自治出漁期間ヲ包含スルヤ
否ニ閔スル件

本件ニ關シ本月十八日付発第一三七号ヲ以テ御問合ノ趣了

承大正十年及十一年度ニ自治出漁ヲ容認スルニ當リ借区期

間カ大正十年又ハ右両年ニ亘リタルモノニ付テハ既得権ト

シテ取扱ヒタル次第ナルニ鑑ミ明年度漁区開設希望願ニ付

テハ自治出漁期間ヲ通算シテ處理スヘキモノト思料候モ露

国政権ニ対シテハ其結果ハ別シテ一應之ヲ包含セシメサ

ルコトトシテ交渉ヲ試ムルヲ得策ト認メ候ニ付此際御作成

相成ヘキ開設希望願ハ大正六年度以降競落長期漁区ヲ包含セシメタルモノト然ラサルモノト二様ニ準備シ置キ右交渉ノ結果ニ依リ孰レカ提出シ得ル様御手配相成様致度此段

シ左ノ談話アリタリ

一、来春ハ沿岸警備艦隊ヲ整頓シテ沿岸ノ密漁者及其ノ他

メ密輸出ヲ嚴重ニ取締ルヘシ明春ハ日本漁業家ヲシテ露

国領海及沿岸ニ於テ漁業ニ(脱)セントセバ之ニ対シテ

ハ相当ノ借区料又ハ稅金ヲ徵シテ許可スル意向ナリ

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業関係雑件 一五八 一五九

一八一

等ヲ強徵シ尚漁獲物ニ對シ輸出稅ヲ課セムトスル趣ニ有之候右ハ日露漁業協約ノ規定ヲ無視シ本邦當業者ノ利權ヲ侵害スルモノト認メラレ候ニ付テハ露國側ハ右ニ依ル損害賠償等ノ責ニ任スヘキモノナルコトヲ指示シ適當ナル機會ニ於テ露國當局ニ抗議相成候様致度此段及照会候也

一五七 十一月六日 村上農務省水産局長ヨリ
永井外務省通商局長宛

明年度ノ露領沿海出漁方針ニ付照会ノ件

局第二五三七号 (十一月七日接受)

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業関係雑件 一六〇 一六一

一八四

回答申進候也

追テ本年度組合ノ取極ニ依リ実際經營シタル漁区ニ付テハ三年長期トシテ発表候様一応交渉ヲ試ム爾筈ナルモ其結果難逆睹ニ付是亦二様ニ準備シ置カレ度此儀申添候

一六〇 十二月十日 在満洲里田中領事代理ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

太平洋沿岸及カムチャツカ地方ノ經濟開發資

金ニ漁区租借料ヲ充当スヘシトノ「ブーチ」

紙論説大要報告ノ件

第八五号 （十二月十一日接受）

十二月七日發行「ブーチ」ハ「露國人民ニ要求ス」ト題シ

極東ノ產業發展ノ為ニ太平洋岸及勘察加地方ハ閑却スヘカ

ラス目下之カ經濟狀態ヲ調査シ產業狀態監視機関ヲ設ケ次ニ官民合同ノ事業ヲ興ス必要アリ之カ資金トシテ日本漁業家ヨリ漁場租借料ヲ徵收スヘシ

今ヤ「サビエト」政府ハ實際上ノ露國政府ニシテ右租借料ヲ受クル権利アリ依リテ露國ハ日本漁業家ニ計算書ヲ示シ他方日本漁業家ニ漁業協約改訂迄前協約ニ依ル権利全部ヲ認ムヘク然ラサル場合ニハ之ヲ取上ケテ新ニ競売ニ附スヘ

シ但シ此ノ場合漁区租借料ニハ從前不払額ヲ加算スルコトトス

漁区ヲ競売セサル場合ニハ未払租借料ハ日本政府ノ負担トセシムヘシトノ論説ヲ掲載セルカ右ハ社説ニ非サルモ齊多當局中日露漁業問題ニ関シ妥協的態度ヲ有スルモノアルモノト認メラル

一六一 十二月十四日 内田外務大臣ヨリ
在浦潮松村總領事宛（電報）

漁業問題ニ関シ新漁業長官ニ申入方訓令ノ件
別電 同日内田外務大臣発松村總領事宛電報第三〇四

号

右申入ノ趣旨

第三〇三号

漁業問題ニ関シ資多若ハ莫斯科当局ト商議開始方ニ付テハ貴官ヨリモ度々御電票ノ次第モアリ旁目下其ノ寒行方ニ付考慮中ナル處貴電第二八九号ニ依レハ新任漁業長官ハ中央ノ命令ニ基キ来年度漁業ニ關シ近ク何等カノ措置ヲ執ル可キ趣ナルニ付テハ此際貴官ハ同長官ニ対シ大体別電第三〇四号ノ趣旨ヲ全然貴官ノ所見トシテ懇談的ニ申出デラレ之ニ対スル先方ノ應酬振如何ニ依リテハ右貴官ノ申出ヲ中央

明年度漁業ニ関スル露國側意向報告ノ件
通監普通合第二五七四号

本件ニ關シ今般在浦潮松村總領事ヨリ別紙写ノ通リ電報有之候條御参考迄右茲ニ及御送附候也

（別紙）

十二月十四日在浦潮松村總領事発内田外務大臣宛電報

第四一〇号

新漁業長官ノ意向報告ノ件

第四一〇号

明年度ノ漁業ニ關シ御訓令ニ基キ是迄探リタル露國側ノ意向ヲ綜合スレハ明年度露國側ハ漁業協約ノ規定ニ準拠シ漁業ヲ經營セシムル措置ヲ執ルモノノ如ク而シテ新任漁業長官ノ語リタル所ニ拠レバ新漁区開設希望願出ハ從來ノ如ク受理スヘク其提出期限其他ニ關シテハ二、三日中ニ告示スヘキモ期限ハ一月十五日迄ニテ其他ノ各項ハ從來ト大差ナキモノナル趣ナリ

モノト信ズ

一六二 十二月十五日 永井外務省通商局長ヨリ
村上農務省水産局長、酒井露領水產組合組長宛（電報）

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業関係雑件 一六一 一六三

一八五

告ノ件

(十二月十七日接受)

「ゴーロス、ローデヌイ」紙所載

日本通信

第四一六号 貴電第三〇三号ニ関シ御來示ノ次第ヲ漁業長官ニ申入レタ

ル処來年度漁業ニ關シテハ從來施行ノ規則ニ基キ行フモノナレバ特ニ商議ヲ要スルコトナキコト思ハルモ本件ニ關シテハ自己ノ直屬長官タル県國民經濟委員會長ニ直接申入レラレタキ旨ヲ答ヘタリ右委員會長ハ目下旅行中ニ付会見ノ結果ハ追テ電報ス

一六四 十二月十八日 露領水產組合ヨリ
通商局監理課宛

極東漁業問題ノ至急解決ヲ論ゼル「ゴーロス、ローデヌイ」紙記事送付ノ件

発第一五九号 大正十一年十二月十八日 (十二月十九日接受)

露領水產組合（印）
通商局監理課御中

浦潮發刊「ゴーロス、ローデヌイ」紙十二月四日分ニ別紙訳文ノ如キ記事掲載有之候間為御参考差進候也
(別紙)

レガ悲觀的現象ヲ呈スルナリ、此外日本漁業者ガ露國國庫へ借区料ヲ納入セザル為メ露國ニ對シ物質的損害ヲ与フルモノナリ、彼等ハ前年来露國ノ經濟上並ニ政治上無力ナルヲ奇貨トシ且ツ政府ノ後援ヲ得テ、全ク露國ノ法律、協約並ニ漁業規則ヲ無視シテ露國沿岸ニ於テ方外ナル漁撈ヲナシタリ

日本政府ハ自國漁業者ノ請願ヲ容レ、露國極東沿岸ニモ尚ホ且ツ漁業保護ヲ制定シ以テ日本漁業者ノ法律違反ヲ益々助力シタルモノナリ、此問題ハ當時ノ露國新聞紙、漁業監視官ノ報告等ニ依リ既ニ明瞭ナル事実ナルヲ以テ爰ニ是ヲ再記セズ

此漁業ニ關スル日本人ノ行動タルヤ決シテ偶然ノモノニアラズシテ極東ニ於ケル日本ノ行動ノ上ニ於テ久しき以前ヨリノ計画タルナリ、斯ノ如キ状態ガ将来モ尚且ツ繼續スルニ於テハ我露國ノ為メ頗ル重大ナル危険ヲ伴フモノニシテ借区期間ノ延長ハ只ダ日本人ヲノミ利益スルニ止マルナリ而シテ露國ガ現状ヨリ脱出シ得ザルコトハ寸毫モ日本ノ為メ不利益ヲ齎サザルナリ

目下日本露領水產組合ハ将来ノ漁業問題ヲ審議中ニシテ主

極東漁業問題ハ該方面ニ於ケル露國經濟政策上最モ重要ナル問題ノ一ナリ

極東漁業界ニ於ケル現下ノ不自然ナル現象ニ鑑ミ本問題ハ此際至急解決ヲ要スベキモノニシテ若シ然ラザルトキハ益紛糾シ遂ニハ是ガ解決ヲ見ルコト至難ナルニ陥ルベシ而シテ是ガ完全ノ解決ハ現行漁業協約ニ依リ日露兩國ノ外交的永続交渉ノ途ニ依ルノ外ナキノミナラズ長時日ノ期間ト多大ノ困難ヲ要スルナルベシ、且ツ交渉ニ際シ相互利益ノ免カルペカラザル衝突ハ本問題ヲシテ益々複雜ナラシメ延イテ一般的の解決ニハ相當時日ヲ要スルナルベシ

露國領海内ニ於ケル漁業問題ニ干シテハ日本ヲシテ必ズ極東露領沿岸ノ商工業ノ利益ト相一致スベキモノナルコトヲ緊要条件トセシメザルペカラズ、是レ本問題ノ最モ複雜ナルモノニシテ彼等ハ既ニ予メ彼等ノ位置ヲ保持セントスルベキ所以ナリ

現時ノ不自然ナル政局ハ極東ニ於ケル露國ノ利益ニ対シ其準備中ナリ

彼等ハ日本政府ガ彼等ノ利益ヲ保護セシムベク政府ニ対シ團結ヲ為スノ準備中ナリ、則チ前年露國ノ無力ナルニ乘ジリ、極東ニ於ケル新露國官憲ガ漁業問題ニ關シ如何ナル態度ニ出ヅルヤハ日本漁業者ニ採リ最モ重要ナル意義ヲ与フルモノニシテ彼等ハ既ニ予メ彼等ノ位置ヲ保持セントスルナリ

日本漁業者ハ前年ノ基礎ニ基キ将来モ此特許ヲ得ンコトヲ日本政府ニ懇請スルモノナリ

則チ露國ノ競売ニ参加セズシテ旧漁区ヲ經營シ且ツオホツク及ニコラエフスクニ於ケル「バルチザン」ノ漁場焼払ヨリ生ジタル損害トシテ組合ニ届出タル損害高補償ノ為メト称シ露國國庫ニ借区料ヲ納入セザルコトヲ務メルナリ、又組合ハ浦潮斯徳ヲ度外視シテ東京ニ於テ漁区配分ヲ為スナリ、而シテ是ガ配分ノ漁区ハ租借中ノモノ満期ノモノ及露人ヨリ日人ニ譲渡セシモノノ三種ナリ

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業関係雑件 一六四

一八八

カクノ如キ方法ハ日本漁業者ノタメ最モ有力ナルモノニシテ彼等ハ組合ニ漁区ノ分配並ニ組合所有船ニ漁業監督ヲ為サシムル等務メテ組合ノ勢力増進ヲ計ルナリ、吾人ハ組合ガ農商務省ノ大ナル後援ヲ有スルコトヲ記憶スルヲ要ス、是ガ故ニ現水產局長ハ極東露領ノ水產富源ヲ侵略スル日本大漁業者ノ位置ヲ支持シツツアリ

共同ノ利益ヲ計ルタメ日本大漁業者（最近迄各自互ニ競争シタルモノ）ハ近來大合同ヲナシ其結果財政上甚ダ有力ナルモノトナリシノミナラズ一面露領ニ於ケル日本漁業ヲ独占シ併テ組合ノ要部ヲ自己ノ手ニ掌握スルニ到リタリ此ノ團体ハ日魯漁業（有力ナル四会社ヲ合併シタルモノ）及三菱ノ資金融通ヲ受クル北洋漁業ヨリ成ルモノニシテ此二会社ノ合併ハ不日具体的ニ決定スベシ

尚ホ此「シンジゲート」ニ對シテハ朝鮮銀行、三菱第一銀行ガ投資スルヲ以テ此有力ナル團体ハ勿論政府ニ對シテモ大ナル勢力ヲ有ス、此事実ハ現在ノ状態ニ在リテハ殊ニ顯著ナルモノニシテ露國漁業ノ富源ノ為メニハ大ナル脅威ナリ

現下露國々民ハ漁業ニ關シ日本人ノ計画ニ對シ甚大ノ注意

目下紅魚魚族ノ漁獲高一年約九百万布度ニ達シ露領水内ニ於テハ日本人ハ約七五一八〇パーセントノ漁獲ヲナスナリ是ニ依リテ觀ルトキハ彼等ヨリ漁業協約ガ彼等ヲ掣肘シ又ハ漁業ニ關スル露國法規ガ彼等漁業ノタゞ不便ナリトノ言ヲ聞クハ寧ロ笑フベキナリ

尚ホ露國々民ニ取リ他方面ニ於テ最モ重大ナル問題アリ則チ日本人漁獲ハ既ニ最大限度ニ達シ今ヤ極東各地ニ於テ魚族ノ衰減ノ徵アルハ是ナリ

本問題ニ就テハ他日又通信スベシ

一六五 十二月十九日 外務省通商局長ヨリ

農商務省水產局長宛

漁業問題ニ關シ露國ト交渉開始方ノ件

通監機密第一六八号

來年度露領漁業ニ關スル件

本件ニ關シ大正十一年十二月十四日附ヲ以テ別紙甲号及乙

号ノ通り在浦潮松村總領事宛訓電相成候処今般別紙丙号ノ通り同總領事ヨリ回電有之候条御参考迄右写效ニ及御送附候也

註 別紙甲乙丙各号ヲ省略ス右甲号ハ前掲ノ十二月十四日内田

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業関係雑件 一六五 一六六

ヲ拝ハザルベカラズ

旧漁業協約ハ日本ニ對シ一定ノ保証ヲ与フルモノナルト同時ニ又露國ノ利益ヲモ保証スルモノナリ、是ニ基キ露國官憲ハ日本漁業者ヲシテ協約ニ規定シタル各種ノ義務ヲ尊重併ニ遂行セシメザル可カラズ、則チ先ツ浦潮斯徳ニ於テ施行サル海面漁区貸下入札ヲ遵守セシメザルベカラズ、此場合ニ於テハ日本漁業者ハ前年来ニ對スル納入金ヲ金貨留ニテ納入セザルベカラズ、追納ノ方法、納入ノ不正確等ノ問題ニ干シテハ聯合委員会ヲ設ケ日露兩国ガ各有スル根拠ニ基キ是ガ審査ヲ為ストキハ容易ニ解決スルノミナラズ尚ニ依リ露國當該官衙モ証拠書類其他記録ニ依リ精算ヲ為スコトヲ得ベシ、貸下入札ニハ露國國庫ニ債務ヲ完納シタル漁業者ニ限り参加シ得ルコトヲセザルベカラズ

漁業政策ヲ定ムニ當リ吾人ハ日本漁業者ノ望ムガ如キモノアラズシテ全ク吾人ノ利益其他合理的ノ見地ニ基クモノナルコトヲ努ムルヲ要ス

日本人ハ常ニ漁業協約ガ彼等ヲ掣肘スルモノナルコトヲ訴フルモ、此等ハ其論拠ナキナリ、若シモ是ガ事実ナルトキハ彼等ハ今日ノ如キ結果ヲ得ザリシナルベシ

外務大臣堀松村總領事宛電報第三〇三号写ニシテ乙号ハ同第三〇四号写ナリ又丙号ハ前掲ノ十二月十七日松村總領事発内田外務大臣宛電報第四一六号写ナリ

一六六 十二月十九日 外務省通商局長ヨリ

農商務省水產局長宛

來年度露領漁業ニ關スル露國側方針近ク決定

アルベキ旨報告ノ件

通監機密第一六九号

本件ニ關シ今般在浦潮松村總領事ヨリ別紙写ノ通り電報有之候条御参考迄右写效ニ及御送附候也

(別紙)

十一月十六日在浦潮松村總領事堀松村革命委員長「ペリ

スキ」ハ時期モ切迫シ且ツ露國當業者ヨリノ希望モアルノミナラズ折角齊多ヨリ専門家ナル新漁獵長官モ来浦シタルニ付勞々來ル十八日會議ヲ開キ近々詳細ノ方針ヲ決定シ發表スル運トナルベシト云ヘリ

一六七 十二月二十二日 在浦潮松村總領事ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

漁業問題ニ關シ県國民經濟委員會長ト會談ノ

結果報告ノ件

第四三二号

（十二月二十三日接受）

往電第四一六号ニ關シ

県國民經濟委員會長ハ同十一日帰浦セルニ依リ二十二日御來示ノ次第ヲ申入レタル處自分ハ之ニ對シ回答スヘキ權限無キモ來年度ノ漁業ニ關シテハ莫斯科ヨリ電報アリタルニ依リ一兩日中ニ委細ノ規定ヲ發表スペク右規定ハ大体ニ於テ從来ノ漁業協約ニ基キタルモノナレバ日本漁業家ニ於テモ満足セラルベキコトト思ハルモ莫斯科ヨリノ電報ニ依リ從来ノ漁区代金ヲ支払ハザルモノハ日露両国人トモ競壳参加ヲ許可セザルニ依リ本邦漁業家ニ右ノ事情ヲ伝ヘラレタキ旨ヲ語リタルヲ以テ右漁区代金支払ノ件ハ一般漁業ニ關シ日露両国間ニ商議ヲ開始スルコトアル時期迄之ヲ除外シ置キ代金未払ノ儘来年度ノ競壳ニ日本人ヲ参加セシムルヤ否ヤラ中央ヘ確カメ方申入レ置キタル處一応電報スペキモ到底困難ナル旨ヲ答ヘタリ

從来屢々申進ジタル通り当地ニ於テ單ニ本問題ノミナラズ万事解決困難ナルモ林業經營者ハ当地ニ於テ當局ト下相談ノ結果相互ノ了解ヲ得テ齊多ニ赴キタル実例モアルヲ以テ時期モ切迫シ居ルニ付漁業者側ヨリモ當地ニ代表者ヲ派遣シ事實上ノ商議ヲ開カシムル方将来ノ為ニ頗ル有利ナラズヤト思考セラル

註 右電報第四三二号ノ写ハ十二月二十八日附通監機密合第九二六号ヲ以テ永井通商局長ヨリ村上水產局長及酒井露領水產組合組長宛夫々参考ノ為送付セラレタリ

一六八 十二月二十三日 外務省通商局長ヨリ
農務省水產局長、酒井露領水產組合組長各宛

露領ニ於ケル利權ニ關スル極東革命委員會ノ

決定二付通報ノ件

附屬書 在浦潮松村總領事ノ入手セル右決定写

通監普通合第二六五二号

露領ニ於ケル利權ニ關スル極東革命委員會ノ決定ノ件今般在浦潮松村總領事ニ於テ齊多極東革命委員會發在浦潮沿海縣革命委員會長宛別紙電報ヲ入手セル趣ヲ以テ報告有之候条御参考迄右写茲ニ及御送附候也

（附屬書）

露領ニ於ケル利權ニ關スル極東革命委員會ノ決定

（十二月八日齊多極東革命委員會發在浦潮縣革命委員會長

「ベリスキ」宛電報）

一、露國人名義ノ利權ハ出資者ノ如何ヲ問ハス其ノ事業ヲ禁止セサルコト

二、露國人ト外国人トヲ問ハス從来締結セル總テノ利權契約ヲ無効トスルコト

旧利權契約者ノ債務ハ縣革命委員會名義ニテ浦潮國立銀行ニ供託スルモノトス然ラサレハ「チタ」其他何レノ地點ニ於テモ将来交渉ニ應セサルコト

三、利權復旧ノ条件ヲ知ラントスル者ハ露國人ト外国人トヲ問ハス「チタ」ニ赴キ極東革命委員會ニ願出ツルコト

四、十二月十二日迄鈴木ノ請願ハ許容シ得サルヘク労働者及工業ニ對スル責任ハ全部利權契約者ニ於テ之ヲ負フコト

五、東京實業團ノ如何ナル恐喝アリトモ掠奪行為ハ總テアラユル手段ヲ以テ抑圧スルコト

八 極東露領沿海ニ於ケル漁業關係雑件 一六八

書記 ステパーソ

委員 馬トヴィエフ

ヤンソン

クービヤック

ウボレーヴィチ

コレニエフ

ボストイツシェフ

一六九 十二月二十七日 在浦潮松村總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

來年度露領沿岸漁区競売ニ関スル露國側方針

二付報告ノ件

(十二月二十八日接受)

貴電第三一五号ニ閲シ

漁業長官ニ當業者來浦ニ閲シ談話シタル処出来得ル限り便宜ヲ与フベキ旨ヲ答ヘタルガ其際同長官ハ來年度ノ競売ハ從来ノ如ク願書受付ノ後漁区表ヲ作製シ居リテハ時機ヲ失スルニ付願書受理ヲ為サズシテ從来開設シアル漁区全般ヲ競売ニ附スルコトニ決定セルニ付右ノ趣旨ヲ當業者ニ伝ヘラレ度旨ヲ申出タリ尚又貴電第二六三号中ノ(二)(三)ニ閲シ漁業長官ノ上司タル人民經濟「ソヴィエット」代表者ニ確メタル處之等ハ全部無効トナシ改メテ競売ニ附スルモノナル

旨ヲ回答セリ又往電第四三四号帶納漁区代納入期日ニ閲シテハ二十一日附革命委員会決定第二十四号ヲ以テ極東露領水域ニ於テ今日迄經營セル漁業者ノ滯納漁区代納入期ハ一九二三年二月一日迄ナル旨ヲ發表シ其他ニ閲シテハ何等言及シ居ラザルヲ以テ前記代表者ニ対シ來年度ノ漁業ニ閲スル詳細ナル規定ハ何時頃發表セラルルヤラ質シタル処齊多ヨリ電報アリ次第發表スペキモ近ク「ベリスキ」帰浦スベキニ付同人到着ニ依リ林業其他ト共ニ万事解決スペキ旨ヲ語レリ

註 1 右電報第四三八号ノ写ハ十二月二十八日附機密合第九二八号ヲ以テ永井通商局長ヨリ村上水産局長及酒井露領水產組合組長宛夫々参考ノ為送付セラレタリ

2 「メ」政權ニ於テ本年四月執行セル競売及大正八九年度競売ニ依ル既得權ニ閲スル件

事項九 「カナダ」ニ於ケル本邦移民排斥関係一件

一七〇 二月九日 在オタワ太田總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

官有財產上ノ事業ニ東洋人使用禁止ノ B・C

州閣令確認法ヲ不可トスルカナダ大審院ノ裁

定報告ノ件

第五号

(二月十一日接受)

客年往電第一〇九号ニ閲シ

二月七日加奈陀大審院ハ British Columbia 州ハ本件立

法ノ權限ヲ有セズトノ裁定ヲ与ヘタリ

右ニ付司法省ハ未ダ裁定理由書ヲ接受セズトノコトナルモ

新聞紙ノ伝フル所ニ依レバ本件 B・C 州ノ立法ハ British

North America Act 第九十一条竝日英條約法ニ抵触スト云フニ在リ但シ二名ノ判事ハ反対意見ヲ述ペタル趣ナリ尚

詳細ハ理由書入手ノ上郵報スベシ

晩香坡ニ転電シ倫敦ヘ郵報セリ

註 日本外交文書大正十年第一冊上卷三六六文書

九 「カナダ」ニ於ケル本邦移民排斥関係一件 一七〇 一七一

(附属書)

在ヴァンクーバー斎藤領事ヨリ在オタワ太田總領事宛阿往第七号写

附屬書 同日斎藤領事発在オタワ太田總領事宛阿往第七号写

公第五三号 (二月十一日接受)

大正十一年二月二十四日

在晩香坡

領事 斎藤 和(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

大正十一年二月二十四日付本官発在オタワ太田總領事宛阿往第七号公信写送附

註 日本外交文書大正十年第一冊上卷三六六文書

一九三